

総合教養科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
総合教養センター専任教員			
ナンバリング：G11A01			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 戸板女子短期大学の歴史を理解し、大学生としての学びの基盤を形成することで、本学の学生として必要な教養と実践力の基礎作りをする。 (授業目標) ◎A：ものごとに対する興味と問題意識を持ち、仲間とともに積極的に課題に取り組むことができる。 B：自律した精神をもち、他者と関わることができる。 ○C：そのときどきの状況を理解し、適切な判断のもとに行動することができる。 D：本学の歴史・教育理念を理解する。 E：ふさわしい手法を用いて自分の考えを論理的に表現できる。
授業計画	<p>1 戸板ゼミ概要、産学連携授業1 学長講演 戸板ゼミナールに関するガイダンス 産学連携とは</p> <p>2 産学連携授業2 マーケティングの視点について 活動記録の残し方・操作方法・目的（総合教養教員他担当者）</p> <p>3 産学連携授業3 連携企業からの課題説明 個人ワークの提示（総合教養教員他担当者）</p> <p>4 産学連携授業4（PC使用） グループワーク開始 個人ワークの発表 グループ案の決定（総合教養教員他担当者）</p> <p>5 産学連携授業5（PC使用） グループワーク 情報収集とペルソナ作り（総合教養教員他担当者）</p> <p>6 産学連携授業6（PC使用） グループワーク ベース案の掘り下げ（総合教養教員他担当者）</p> <p>7 産学連携授業7（PC使用） グループワーク コミュニティ支援について（総合教養教員他担当者）</p> <p>8 産学連携授業8（PC使用） グループワーク プレゼンテーションに向けたシナリオ/スライド作成（総合教養教員他担当者）</p> <p>9 産学連携授業9（PC使用） グループワーク プレゼンテーションの取り組み方について プレゼンテーションに向けたシナリオ/スライド完成（総合教養教員他担当者）</p> <p>10 産学連携授業10（PC使用） グループワーク 予選に向けたプレゼンテーション練習（総合教養教員他担当者）</p> <p>11 産学連携授業11（プレゼンテーション：プレゼンテーション大会予選） プレゼンテーション大会予選（総合教養教員他担当者）</p> <p>12 産学連携授業12（PC使用） 活動のふりかえり（総合教養教員他担当者）</p> <p>13 特別講演（ゲスト講師） 特別講演 防犯教育（ゲスト講師）</p> <p>14 産学連携授業13（プレゼンテーション：プレゼンテーション大会決勝） プレゼンテーション大会決勝（総合教養教員他担当者）</p> <p>15 産学連携授業14（PC使用） 優勝チームのプレゼンテーション披露 就活へのアプローチ 活動の記録の完成（総合教養教員他担当者、キャリアセンター）</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：ひとつひとつの課題に最後まで真摯に取り組むことができる。 B：自分の役割を果たす努力をしながらグループワークに参加することができる。 ○C：そのときどきの状況で適切とされる行動が何かを考える習慣を身につける。 D：本学の教育理念を簡単に説明することができる。

	E：自分の考えを整理してから相手に伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：プログラム、担当者等によるため、授業担当者の指示にしたがうこと。(30分程度) 事後学習：プログラム、担当者等によるため、授業担当者の指示にしたがうこと。(30分程度)
指導方法	産学連携プログラムの目標達成に向けて、さまざまな手法でアプローチする。 フィードバックの仕方：各プログラムによる。担当教員、ゲスト講師や連携企業からの総括したフィードバックのほか、必要に応じて個別にコメントする。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題、授業への貢献度を評価する。 B：課題、授業への貢献度を評価する。 C：課題、授業への貢献度を評価する。 D：課題によって評価する。 E：課題、授業への貢献度を評価する。 授業への貢献度50%、課題50%
テキスト	適宜必要なプリント等の資料を配布する。
参考書	総合教養センターが推薦している図書（図書館及び総合教養センターに設置）、ゲスト講師推薦の図書
履修上の注意	学科、クラス、学籍番号によって、スケジュール、受講教室などが異なることが多いため、毎回連絡を各自でしっかり確認し、まちがえることのないよう出席すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
村木桂子、江原数彦			
ナンバリング：G11A02			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、基礎となる言語分野、マナーを学修する。言語では演習を通してアカデミック・スキルを身につけ、論理的に考える力を養う。マナーでは、実際に体を動かしワークをしながらコミュニケーション力、発信力、対話力を磨いていく。 (授業目標) 【言語】 ◎C：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしいアカデミック・スキルを身につける。 D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。 【マナー講座】 ◎B：マナーの五原則を理解し、戸板女子短期大学の理想像となるような言動ができる。 E：信頼感を与える話し方、積極的な聞き方を身につける。
授業計画	<p>1 言語1 小テスト：漢字書き取り ノート・テイキング（初年次教育） 演習問題：二語の対応、熟語の意味 （ICTの活用：e-learningにて事前学修）</p> <p>2 言語2（グループ・ワーク） 小テスト：二語の対応、熟語の意味 文章表現演習：クリティカルシンキング 演習問題：対義語・類義語</p> <p>3 言語3（グループ・ワーク） 小テスト：対義語・類義語 文章表現演習：リーディング（1）新聞に親しむ 演習問題：四字熟語</p> <p>4 言語4（グループ・ワーク） 小テスト：四字熟語 文章表現演習：リーディング（2）要約 演習問題：同音異義・同訓異字</p> <p>5 言語5（グループ・ワーク） 小テスト：同音異義・同訓異字 文章表現演習：リーディング（3）学術的な文章を読む 演習問題：難読漢字</p> <p>6 言語6 小テスト：難読漢字 文章表現演習：ライティング（1）情報整理 演習問題：慣用句</p> <p>7 言語7 小テスト：慣用句 文章表現演習：ライティング（2）論理的文章の書きかた（基礎） 演習問題：ことわざ・故事成語</p> <p>8 言語8 小テスト：ことわざ、故事成語 文章表現演習：ライティング（3）論理的文章の書きかた（応用） 演習問題：誤字直し</p> <p>9 言語9（グループ・ワーク、プレゼンテーション） 小テスト：誤字直し ミニビブリオバトル 演習問題：SPI言語総合演習問題 （ICTの活用：e-learningにて事後学習）</p> <p>10 マナー講座1「オリエンテーション」（講義/演習） ①講義の目的と目標、授業内での4つのルールを確認する ②マナーの基本となる対応の五原則（視覚的要素・聴覚的要素）の理解 ③挨拶を極意で学ぶ。正しい姿勢、綺麗なお辞儀の基本形を練習 ④サービスとホスピタリティの違いを理解し、ホスピタリティの実践を目指す意識を高める</p> <p>11 マナー講座2「洗練された立ち居振る舞い」（講義/演習） ①信頼される話し方トレーニング（腹式呼吸・発声・発音の基本練習） ②スマイルトレーニングを覚え、口角の上がった笑顔ができるよう練習 ③動作のポイントを理解し、一つ一つの動きを覚える（立ち姿勢・椅子の座り方・物の授受等）</p> <p>12 マナー講座3「敬語マスター術」（講義/演習） ①信頼される話し方トレーニング（滑舌法） ②敬語の種類を整理し、尊敬語と謙譲語の違いを明確にする</p>

	<p>③NGとされている言葉遣いと接遇用語を練習問題で何度も練習 ④婉曲な表現法を使って会話ができるように練習</p> <p>マナー講座4「コミュニケーションの達人を目指す」(講義/演習)</p> <p>①信頼される話し方トレーニング(スピード、イントネーション、間の取り方) ②敬語小テスト ③聞き方5ポイントを覚え、積極的にきく姿勢を身につける ④リフレクティングプラスワン話法(共感しながら楽しい会話を続ける)トレーニング</p> <p>マナー講座5「ホスピタリティコミュニケーション」(講義/演習)</p> <p>①信頼される話し方トレーニング(PREP法) ②敬語小テスト ③それぞれの場面で求められるホスピタリティを考える ④好印象を与える電話応対(名乗り、電話の慣用句)の練習 ⑤面接、インターンシップ等、接点時に積極的に肯定的な表現を練習する</p> <p>マナー講座6「場面に応じた立ち居振る舞いと服装」</p> <p>①来客応対・訪問マナー ②目的の応じた服装、慶事弔事の心得 ③封筒の表書きの書き方練習 ④メールの送り方心得</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>【言語】</p> <p>◎C:論理的な文章の基本型を理解し、書き上げることができる。 D:基礎的な就職試験問題を解くことができる。</p> <p>【マナー講座】</p> <p>B:明るい声で話し、相手の話に反応を示しながら会話ができる。 ◎E:丁寧なお辞儀、好印象を与える笑顔や傾聴の姿勢等で礼儀正しい印象を持たせることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習</p> <p>【言語】小テストに向け、事前配布したプリントやe-learning上の指示された課題に取り組む。(60分程度)</p> <p>【マナー講座】「教科書:マナー演習」「綺麗な言葉遣いエクササイズ」「動画視聴」で事前に基本形を理解し、授業に臨む。(30分程度)</p> <p>事後学習</p> <p>【言語】授業内容を復習する。小テストは合格点に達するまで繰り返し復習する。文章課題を完成させる。(60分程度)</p> <p>【マナー講座】授業終了毎に事後学習で反復練習する。テーマ毎の事例研究で課題を完成させる。(60分程度)</p> <p>※<重要>【言語】は毎週、期限内に1F・総合教養センター、あるいはGoogle Classroomへ課題を提出する。</p>
指導方法	<p>履修学生をクラス分けし、言語とマナーを指導する。</p> <p>【言語】毎回、授業開始時に小テストを実施する。パワーポイントを使用しての講義と演習が基本であるが、ペアワークやグループワークを行う場合もある。</p> <p>フィードバックの仕方:小テストは採点后、再提出・再テストの指示を明記した状態で返却する。作文には全体に対して総括のコメントを行うとともに、必要に応じて個別に指導する。</p> <p>※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する。</p> <p>【マナー講座】Google Classroomと対面授業で指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①事前学習でテーマ毎に動画を視聴、②対面授業で再度手本を示し、③ステップに沿ってロールプレイで体得、④学生相互で評価、⑤必要に応じ理想とする基準を再度手本で示し、理解を深める。 ・事後学習で①課題に取り組み提出、②小テストの場合は結果にコメント記載し返却、③授業内で質疑応答に応じ、ポイントをアドバイス。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>【言語】</p> <p>C:課題の提出状況で評価する。 D:課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、平常点(授業貢献度、課題) 50%</p> <p>【マナー講座】</p> <p>B:普段の授業での声の大きさ、返事、グループディスカッションでの貢献度で評価する。 E:普段の授業での挨拶、立ち居振る舞い、演習発表で評価する。</p> <p>ロールプレイ、プレゼンテーション 30% 授業態度、授業への貢献度 30% 定期試験、課題提出内容、期日厳守 40%</p> <p>※言語とマナーを3対2の割合で評価する。どちらか1つのプログラムが0点の場合は単位修得とはならない。</p>
テキスト	<p>【言語】テキスト:毎回プリントを配布する。 【マナー講座】テキスト:「マナー演習」発行元:株式会社アッサンブラージュ2022年3月改訂版</p>
参考書	<p>『2023最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社) 『大学生 学びのハンドブック』5訂版(世界思想社編集部) 『アカデミック・スキルズ——大学生のための知的技法入門』第3版(慶応義塾大学出版会)</p>
履修上の注意	<p>【言語】やむを得ず授業を欠席した場合は、速やかに1F・総合教養センターまで課題を確認しに来ること。 【マナー講座】マナーとは国際的にも通用するコミュニケーションです。授業を通じて何故必要かを理解しながら段階を踏んで習得するので、意識せず自然に表現できるようになります。ホスピタリティを發揮する上で基盤となるものがマナーです。色々な場面での言動を練習し、臨機応変な現場力を磨きましょう。習得の近道は反復練習です。毎回の授業内容が違うので全講座受講を目標に受講ください。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>【言語】グループワーク、プレゼンテーション 【マナー講座】課題解決型学習、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
白川はるひ、村木桂子、江原数彦			
ナンバリング：G12C03			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 自らのキャリア形成を考えるための入門編的授業である。卒業後および1年前期の目標設定と行動のふりかえり、就職活動に向けての説明、卒業後のキャリア設計という3つの柱で授業を組み立てる (授業目標) 社会情勢を客観的にとらえながら自分自身の生き方を多角的に考え、一生続くキャリア(=生き方)選択の力を養う。 ◎A：自らの目標を明確に掲げて学びの計画をたて、その計画に基づいた実践と省察を繰り返すことができる。 ◎C：社会情勢、労働、キャリア理論、および自己に対する理解を深め、卒業後の自らの生き方をより明確にする。
授業計画	<p>1 授業ガイダンス ・授業ガイダンス ・「キャリアデザイン」とは</p> <p>2 自己分析1 ・自己分析テストの受検</p> <p>3 社会人として求められる力(グループワーク) ・ジェネリックスキルとは ・コミュニケーション力とは</p> <p>4 学習力を伸ばす(グループワーク) ・自律的学習について考える</p> <p>5 就職活動の流れ ・就職活動の流れ(キャリアセンターより) ・就職試験について ※スマートフォン使用</p> <p>6 目標達成をするための力(グループワーク) ・タイムマネジメント ・コーチング ・リフレクション</p> <p>7 自己分析2(外部講師)(グループワーク) ・自己分析テストの結果と解説</p> <p>8 インターンシップに向けて ・就活サイトの使い方(キャリアセンター) ・インターンシップの説明(キャリアセンター) ・自己PR文の書き方</p> <p>9 自己分析3(外部講師)(グループワーク) ・自らの強み・弱み、価値観を考える</p> <p>10 人生100年時代の生き方1(外部講師)(グループワーク) ・お金という切り口から「人生100年時代」を考える</p> <p>11 人生100年時代の生き方2(グループワーク) ・卒業後の人生を考える</p> <p>12 業界・企業・職種研究1(グループワーク) ・企業、業界について理解する</p> <p>13 業界・企業・職種研究2(外部講師) ・いろいろな業界を知ろう</p> <p>14 前期の省察と今後のキャリア計画1(グループワーク)(プレゼンテーション) ・前期の省察と今後のキャリア計画について発表する</p> <p>15 人生100年時代の生き方3(ゲスト講師) ・これからの時代のキャリア形成、今後の労働市場について</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：目標にむけた計画書を作成し、その実践結果を省察することができる。 ◎C：社会の現状、業界や自分自身に関する理解等をもとに、後期の学修計画について説明することができる。
事前・事後学習	事前学習 ・配布された課題文の読みこみ あるいは ワークシートへの書きこみ(30分) 事後学習 ・自らたてた行動計画の見直し、また、実践に関してのふりかえり(30分) ・授業内で指示された事後課題(確認テスト、ふりかえり、ワークシートなど)への取り組み(30分)

指導方法	各学科がそれぞれ違う教室で受講するが、原則、各教室をオンラインでつなぎ同じ講義を受講する。授業は主に、講義、個人ワーク、グループワークを進める。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れが求められる。 フィードバックの方法： 提出物に対しては、必要に応じ全体講評を通してフィードバックする。質問には適宜応じる。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：最終課題、提出物、授業貢献度によって評価する C：最終課題、提出物によって評価する 最終課題30% 平常点70%（提出物60%、授業への貢献度10%）
テキスト	無し。適宜プリントを配布する。
参考書	大宮登 著『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第2版』日経PB社, 2014 吉田あけみ 編著『ライフスタイルからみたキャリア・デザイン』ミネルヴァ書房, 2014 村山昇 著『働き方の哲学』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2018 他
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの多い授業である。履修者全員の力が伸びるよう、協力的に参加すること。 ・やむを得ず欠席をした場合は、総合教養センターまで配布物をとりにいくこと。 ・2穴ファイルを用意し、ワークシートなどは保存しておくこと。最終課題作成時だけでなく、後期の就職活動の準備のときにも活用できる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G12C04			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、またビジネスとしての礎を築くため、基礎となる計数分野と非言語分野を学修する。 (授業目標) ○C：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしい論理的思考力を身につける。 ◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。		
授業計画	1	SPI非言語1 和差算	
	2	SPI非言語2 年齢算	
	3	SPI非言語3 植木算、方陣算	
	4	計数1 一次方程式、連立方程式、	
	5	計数2 単位の変換と割合	
	6	計数3 単位と割合、相当算、代金の計算、数列	
	7	SPI非言語4 損益算、周期算	
	8	SPI非言語5 鶴亀算	
	9	SPI非言語6 速さの問題	
	10	SPI非言語7 濃度算	
	11	SPI非言語8 仕事算	
	12	SPI非言語9 場合の数	
	13	SPI非言語10 旅人算、流水算	
	14	SPI非言語11 確率	
	15	SPI非言語12 さまざまな文章題	
学習成果・到達目標・基準	○C：基礎問題の解法について、順序だてて説明することができる。 ◎D：基礎的な就職試験問題を解くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業内容を予習する。（30分程度） 事後学習：前回のプリントの解き直しとその回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。（60分程度）		
指導方法	授業では毎回課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、平常点（受講貢献度、課題）50%		
テキスト	毎回プリントを配布する		
参考書	SPI非言語・言語：『2023最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社)		

履修上の注意	プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントを順次ファイリングすること。また、そのバインダーは毎回期日までに提出すること。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G12C05			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、またビジネスとしての礎を築くため、基礎となる計数分野と非言語分野を学修する。 (授業目標) ◎C：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしい論理的思考力を身につける。 ◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。		
授業計画	1	SPI非言語1 和差算	
	2	SPI非言語2 年齢算	
	3	SPI非言語3 植木算、方陣算	
	4	計数1 一次方程式、連立方程式、	
	5	計数2 単位の変換と割合	
	6	計数3 単位と割合、相当算、代金の計算、数列	
	7	SPI非言語4 損益算、周期算	
	8	SPI非言語5 鶴亀算	
	9	SPI非言語6 速さの問題	
	10	SPI非言語7 濃度算	
	11	SPI非言語8 仕事算	
	12	SPI非言語9 場合の数	
	13	SPI非言語10 旅人算、流水算	
	14	SPI非言語11 確率	
	15	SPI非言語12 さまざまな文章題	
学習成果・到達目標・基準	◎C：基礎問題の解法について、順序だてて説明することができる。 ◎D：基礎的な就職試験問題を解くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業内容を予習する。（30分程度） 事後学習：前回のプリントの解き直しとその回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。（60分程度）		
指導方法	授業では毎回課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、平常点（受講貢献度、課題）50%		
テキスト	毎回プリントを配布する		

参考書	SPI非言語・言語：『2023最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』 オフィス海著(ナツメ社)
履修上の注意	プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントを順次ファイリングすること。また、そのバインダーは毎回期日までに提出すること。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
吉川尚志			
ナンバリング：G12C06			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、基礎となる計数分野を学修する。 (授業目標) ○C：課題への取り組みを通して大学生としてふさわしい論理的思考力を身につける。 ◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。
授業計画	<p>第1回 複雑な計算、数字の英語 就職試験における複雑な計算問題をケアレスミスのない解法を学びます。また、英語での数字の読み方、数字の表記について学びます。</p> <p>第2回 集合 さまざまな調査結果の表をベン図を用いて整理して解く方法を学びます。</p> <p>第3回 場合の数 確率の計算のもととなる場合の数について学びます。</p> <p>第4回 確率の計算 第3回の場合の数をもとに、確率の計算を学びます。</p> <p>第5回 単位の変換 単位を表すアルファベットの意味を知り、その変換を学びます。</p> <p>第6回 年齢算 就職試験に頻出の年齢算、仕事算を学びます。仕事の進め方を考えるのに必要な内容です。</p> <p>第7回 割合 割合には歩合や百分率などもありますが、数学の基礎ともいえる内容です。これを理解することによって、苦手だった文章題もできるようになります。</p> <p>第8回 単位と割合 第5回の単位の変換と第7回の割合の複合問題です。</p> <p>第9回 損益算 就職試験に必出の損益算を学びます。仕事における最低限の考え方を学びます。</p> <p>第10回 濃度算 濃度算とはいうものの実は単なる割合ということを理解します。また%の感覚を身に付けます。</p> <p>第11回 規則性 数字や文字の規則性をいかに簡単に見つけるかを学びます。</p> <p>第12回 鶴亀算、平均 和算の1つに鶴亀算というのがありますが、それについて学びます。また、平均についてを学びます。</p> <p>第13回 旅人算、通過算、流水算 旅人算、通過算、流水算のいずれも速さの問題の応用です。</p> <p>第14回 仕事算 就職試験に頻出の仕事算を学びます。仕事の進め方を考えるのに必要な内容です。</p> <p>第15回 テストセンター対策 就職試験ではPCを用いた学力テストが課されることがありますが、その練習を行います。実際にPCを使用してテストセンターに近い状態で行います。</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：基礎問題の解法について、順序だてて説明することができる。 ◎D：基礎的な就職試験問題を解くことができる。
事前・事後学習	事前学習 授業内容を予習する。(30分程度) 事後学習 前回の課題プリントの解き直しと各回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。(60分程度) ※<重要> 毎週、期限内に1F・総合教養センターへ課題を提出する。
指導方法	授業では毎回、課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。 ※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 定期試験 50%、 平常点（授業貢献度、課題）50%
テキスト	テキスト：毎回プリントを配布する。
参考書	『2023最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』 オフィス海著(ナツメ社)
履修上の注意	プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントをファイリングすること。また、そのバインダーは毎回期日までに提出すること。 ※やむを得ず授業を欠席した場合は、授業で配布したプリントを速やかに1F・総合教養センターまで取りに行き指示に従うこと。 ※学習内容の定着のために春期セミナーの受講を勧める。
アクティブ・ラーニング	e-learning教材、Google Classroom

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
江原数彦			
ナンバリング：G13C07			
添付ファイル			

<p>授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現</p>	<p>卒業後に対面する、ビジネスの世界の「しくみ」を基礎から知り、その世界で生きていくための総合的な基礎力を順序だてて学び、養っていく。内容としては、ビジネスや経済の仕組み・ミーティングの進め方・ロジカルシンキング手法・情報伝達手法・ビジネス実務マナーを扱う。ここで学んだ知識・技能を、学内の戸板ゼミナールや、自身の社会活動（アルバイトやボランティア活動）にも活用することができる内容となっている。</p> <p>(授業目標) A：積極的に「ミーティング」に参加できるようになる。 B：相手の意見を「聴く力（傾聴力）」と「伝える力」を伸ばす。 ◎C：意見をまとめて方向性を見つける力や論理的思考力を伸ばす。 ○D：社会のしくみ・経済の仕組みについて理解し、世の中の動きを把握できるようになる。 E：対面・ICTにおけるビジネスマナー、効果的な情報伝達の技能や表現を理解し、実践できる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>1 授業の概要紹介と受講の約束事を知る／ビジネスの原則を知る 1 ビジネスの原則を理解する 1（会社の仕組み・必要な能力とその力の伸ばし方）</p> <p>2 ビジネスの原則を知る 2／他科目との関連性を認識する ビジネスの原則を理解する 2（経営とマーケティング） 戸板ゼミナールや社会活動（アルバイト）と、本授業との関連性を理解する。</p> <p>3 ミーティング能力を伸ばす 1 話し合いの方法の理解と体験をする。ラベルトーク・ラベル図考とは何かを知り、意見のまとめ方を理解する。</p> <p>4 ミーティング能力を伸ばす 2 意見を視覚的に記録する実践を行う。 テーマに基づいてラベルトーク・ラベル図考を実際に行い、意見のまとめ方を身に付ける。</p> <p>5 ミーティング能力を伸ばす 3 テーマに基づいてラベルトーク・ラベル図考を実際に行い、学んだミーティング手法を定着させる。またこの手法を振り返る。（オンライン組：オンラインミーティング実践、対面組：対面ミーティング実践）</p> <p>6 ミーティング能力を伸ばす 4 テーマに基づいてラベルトーク・ラベル図考を実際に行い、学んだミーティング手法を定着させる。またこの手法を振り返る。（オンライン組：オンラインミーティング実践、対面組：対面ミーティング実践）</p> <p>7 ロジカルシンキング手法 ロジカルシンキングとは何かを知り、その活用方法を理解する。 ロジカルシンキングの手法である「MECE」と「ツリー構造」を理解し、思考やライティングにおいて実践する。 具体と抽象の関係を知り、思考やライティングにおいて実践する。</p> <p>8 情報伝達と表現手法 1（情報伝達の仕組みと種類） 人が情報を理解する仕組みを知る。目的による表現の違いを知る。</p> <p>9 情報伝達と表現手法 2（プレゼンテーション） パワーポイント（スライド）の役割と効果的な使い方・見せ方を知る。</p> <p>10 情報伝達と表現手法 3（書類上の細かな気遣い） 書体・図形の使い分けが与える印象の違いとその活用方法、目的別メディアにおけるレイアウトのあり方、アクセシビリティへの配慮について知る。</p> <p>11 ビジネス実務マナーの体得 1 対面におけるビジネスマナー・オンライン上でのビジネスマナー・ファシリテーションのあり方について理解する。</p> <p>12 ビジネス実務マナーの体得 2 ICTツールを使用する上でのビジネスマナー・効果的な情報検索の方法・著作権について理解する。</p> <p>13 経済知識 1 経済のしくみ・会社と会社の関係・モノの価値の変化について理解する。</p> <p>14 経済知識 2 銀行の役割・国際経済に関する基礎知識を身に付ける。</p> <p>15 総括演習 グループで与えられたテーマについて、授業で扱った手法を用いてミーティングを行い、その結果を報告書にまとめる。</p>
<p>学習成果・到達目標・基準</p>	<p>A：自分の意見が「結果」にどう結び付いているのかを客観視できる。 B：他者の意見を聞いて、質問を投げかけることができる。 ◎C：様々な意見をグループ化し、そのグループの相関を把握し、文章あるいは図式で表現することができる。</p>

	○D：社会のしくみ・経済のしくみについて、簡単な文章で他者に説明できる。 E：授業における行動や成果物において、学んだ内容に則った情報収集と表現ができる。
事前・事後学習	事前学習：授業にて提示された調査内容等を事前調査しておくこと。（初回はなし）（60分程度） 事後学習：グループワーク課題は、グループ内で空き時間を活用し検討課題を全うすること。（60分程度）
指導方法	講義・個人ワーク・グループワークなど、様々な手法を用いての授業となる。戸板ゼミナールと併行して行われるため、この授業にて学んだことを、戸板ゼミナールにて実践できるよう配慮する。Webツールとアナログ式プリントを併用するため、パソコンでのデータ管理とプリントのファイル管理を徹底する事を求める。 フィードバック法：適宜、総括フィードバック・グループフィードバック・個別フィードバックを場面に応じて実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：意見ラベルの枚数をチームへの貢献度として評価対象とする。 B：グループ内での相互評価を取り入れ、話し合いにおける参加度・役割への貢献度を評価対象とする。 C：自分の意見・グループの意見を課題に対して的確に整理し、文章・図式で表現できているかを評価対象とする。 D：授業内小テストにおいて、修得した知識を的確に表現できているかを評価対象とする。 E：提出物等において、アナログ・ICTに関わらず、課題に適した情報収集と内容表現ができているかを評価対象とする。 課題提出物50% 授業における課題への取り組む姿勢（積極的にグループワーク・個人ワークに取り組むか）30% 他者評価20%
テキスト	適宜プリント等の教材を配布する。ファイリングするための専用ファイルを各自購入すること。（A4サイズがファイルでき、いつでも簡単に閲覧できるものであれば形式は問わない）
参考書	特になし。授業時にWeb上での参考データの閲覧を指示する。
履修上の注意	ビジネスを学ぶ授業であるが、メインは「考える力」を伸ばすための授業であるため、常に考えることを求める授業であることを理解して履修すること。得意・不得意は関係なく、考える力を伸ばしたい人であれば受講可能。またWebツールも活用するため、毎時パソコンの持参を求める。
アクティブ・ラーニング	グループワーク 対面でのワークであったり、Google Workspaceを活用したICT上でのワークであったり、様々なアクティブ・ラーニングを行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
江原数彦、中村公子			
ナンバリング：G13C08			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>マーケティングとは「利益をより多く上げるための仕組み作り」であり、会社の経営存続には欠くことのできない知識である。この全てのビジネスに必要となる「マーケティング」の基礎概念を学習する。後半においては、実存する企業に対する実践（企業に企画をプレゼンテーション或いは売り込む）を交えながら、専門科目で学んでいる知識の企業での活かし方についても同時に学んでいく。</p> <p>（授業目標）</p> <p>○A：企業に対する実践活動において、チームで協力して調査・分析・立案ができる。 C：マーケティングのフレームワークを活用して集めた情報を元に、課題を発見できる。 ◎D：マーケティングのフレームワークの役割と内容を理解し、目的に応じて使い分けることができる。後半の実践活動において、目的に見合った企画を立案することができる。</p>
授業計画	<p>1 マーケティングの概要を知る マーケティングの定義・時代による変遷・マーケティングの目的について知る。</p> <p>2 マーケティングの流れを知る／PEST分析を知る 実際の企業の例を元に、マーケティング活動の大きな流れを理解する。 実際の企業の例を元に、PEST分析のやり方について理解し、模擬演習も行う。</p> <p>3 3C分析の理解1 実際の企業の例を元に、3C分析のやり方について理解し、模擬演習も行う。</p> <p>4 3C分析の理解2 実際の企業（あるいは商品）について3C分析をグループで行い、図式にまとめる。 ※時間外のグループ活動あり。</p> <p>5 SWOT分析の理解 実際の企業の例を元に、SWOT分析のやり方について理解し、模擬演習も行う。</p> <p>6 STP戦略の理解 実際の商品の例を元に、STP分析のやり方について理解し、模擬演習も行う。</p> <p>7 マーケティングミックスの理解 実際の企業の例を元に、マーケティングミックスについて理解する。 PLC・価格・消費者行動モデル・販売促進について理解する。</p> <p>8 企業実践1 企業実践課題発表・グループ分け・やるべきことの確認・企業商品理解 ※時間外のグループ活動あり。</p> <p>9 企業実践2 担当企業商品の3C分析を行う。 ※時間外のグループ活動あり。</p> <p>10 企業実践3 STP戦略を練ると共に、アンケートを作成する。 ※時間外のグループ活動あり</p> <p>11 企業実践4 アンケートを集計し、現状分析を再度行う。マーケティングミックスの企画を立案する。 ※時間外のグループ活動あり。</p> <p>12 企業実践5 企画書や付属資料を作成する。あるいは営業活動の準備を行う。 ※時間外のグループ活動あり。</p> <p>13 企業実践6 企画発表の練習をする。あるいは営業活動の振り返りと再挑戦企画を立案する。 ※時間外のグループ活動あり。</p> <p>14 企業実践7 企業への企画発表あるいは販売促進活動の実施 ※時間外のグループ活動あり。</p> <p>15 活動の振り返りと報告書作成準備 企業実践活動の振り返りをグループで行い、個人の活動を含めた報告書作成の準備に取り組む。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○A：役割に対する自らの責任課題を自覚して実践に取り組み、行動や結果を記録に残すことができる。 C：複数の情報を掛け合わせて思考を進めることができる。 ◎D：学習したマーケティングの視点を活用し、実践活動において課題解決のための企画を立案・説明できる。</p>
事前・事後学習	<p>主に事後学習に時間を要する。学んだことを実生活で触れる商品などに置き換え想像することを随時要求する。 なお、授業回の1から3及び5から7において事後学習は少なめ（30分程度）であるが、8から14の事後学習はグループにて取り組むことが多くなるので、そのつもりで予定を立てること。（11月から1月の事後学習は1時</p>

	間から2時間程度)
指導方法	講義・個人ワーク・グループワークなど、様々な手法を用いての授業となる。主に前半は講義と個人ワークが中心であり、後半はグループワークが中心となる。 フィードバック法：適宜、総括フィードバック・グループフィードバック・個別フィードバックを場面に応じて実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：チームでの活動を個人で記録したものを教員が評価する。別途チーム内で学生が相互に評価をしたものを融合して、最終的に個人単位で評価する。 C：実践課題にて提出された課題物において、現状の分析を元に提示されているかを、教員がグループ単位で評価する。 D：個人ワーク課題において提出された成果物に対して、学習項目が正しく理解されているかを教員が個人単位で評価する。 提出課題（個人）30% 提出課題（グループ）30% 他者評価20% 授業における課題への取り組む姿勢（積極的にグループワーク・個人ワークに取り組むか）20%
テキスト	適宜プリント等の教材を配布する。ファイリングするための専用ファイルを各自購入すること（A4サイズがファイルでき、いつでも簡単に閲覧できるものであれば形式は問わない）
参考書	特になし。授業時にWeb等にて参考資料閲覧を求める。
履修上の注意	半年の期間のうち、前半は座学（講義）を中心とし、後半はグループワークを中心とする。そのため、後半は授業外を使ってグループで話し合ったり、役割分担作業を伴ったりする自主学習が増えることを理解して履修すること。 パソコン必携。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・プレゼンテーション 他 対面でのワークであったり、Google Workspaceを活用したICT上でのワークであったり、様々なアクティブ・ラーニングを行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：千葉佳織、有馬優）、村木桂子、江原数彦			
ナンバリング：G14C10			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 「話す技術」を培うことは、学校生活や就職活動、卒業後の社会生活を充実させるために必須である。社会において必要不可欠なスキルをプレゼンテーション・スピーチ学習を通して習得する。「話すことが楽しい」「話すことが得意になった」と感じられるような豊富な実践を含んだ授業となる。</p> <p>(授業目標) ◎C プレゼンテーション作成の過程で自身の思考を整理し、唯一無二の語り手になる ◎E 習得したスキルを状況に応じて的確に選択し、表現手法として活用することができる</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容、進め方の説明、講師の自己紹介</p> <p>2 発声練習・腹式呼吸・朗読 大きな声を自然に出すための発声練習、表現の基礎を学ぶための朗読演習</p> <p>3 自己紹介 自分の経験を深く掘り下げ、魅力的に語る</p> <p>4 ファクトとストーリーを意識した構成 説得力のある話の構成を学ぶ</p> <p>5 1分間スピーチ実践 1分間スピーチを何度も実践する</p> <p>6 間とフィラー削減 堂々とした話し方を身につける</p> <p>7 原稿の書き方・原稿の作成 原稿の書き方を学び、最終発表用の原稿を作成する</p> <p>8 印象的な冒頭の作成・初稿フィードバック 相手の印象に残る言葉の作り方を学び、発表原稿を推敲する</p> <p>9 発表原稿（2稿）の作成 相手の印象に残る言葉の作り方を学び、発表原稿を推敲する</p> <p>10 ジェスチャー・2稿フィードバック プレゼンテーションの視覚的な魅力を磨き、発表原稿を推敲する</p> <p>11 発表原稿（最終稿）の提出とリハーサル プレゼンテーションの視覚的な魅力を磨き、発表原稿を推敲する</p> <p>12 ※予選会第1グループ ※参加人数が10名以上の場合は予選会を実施し、最終発表会に向けたグループ作成・発表者を決定する</p> <p>13 ※予選会第2グループ ※参加人数が10名以上の場合は予選会を実施し、最終発表会に向けたグループ作成・発表者を決定する ※人数次第で講師のスピーチ視聴に切り替え</p> <p>14 自分の発表の工夫点についてプレゼン・最終発表会サポートグループでの練習 自分の発表の工夫点をプレゼンする 最終発表会登壇者とサポートメンバーのチームを作成しリハーサルを行う</p> <p>15 最終発表会（ホール）・総評 学習成果を発表する</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C プレゼンテーションを自分で考え、まとめ、発表することができる ◎E 状況に応じた的確なプレゼンテーションを行うことができる
事前・事後学習	事前学習：前回授業の内容を授業スライドを見て復習する（30分） 事後学習：毎回の授業課題に取り組む（30分）
指導方法	対面授業は基本的にパワーポイントを使用して進める。一方的な講義ではなく実践時間を積極的に取り入れ、毎回発表を行う。 クラスを半分に分け、対面授業とGoogle Classroomを交互に使い、学習を進める。 フィードバックの仕方：課題については、次回の授業で全員に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C 授業課題の一つである発表原稿と、期末の分析レポートを総合的に評価する。 E 授業内で行う個人発表、グループ発表、および授業課題の提出動画を、内容と表現力から総合的に評価する。

	授業内の発表および課題提出50%、期末試験に代替する最終スピーチ発表会50%
テキスト	なし。適宜プリントを配布する。
参考書	なし。
履修上の注意	プレゼンテーションスキルは個人差が大きいため、各自が自分の現在のレベルを正しく認識し、成長可能な目標を各自が掲げ、目標達成を積極的に目指してほしい。また、一方的に講義を聞いていたら終わる授業ではなくインタラクティブな授業になるため、発表を恥ずかしがらず、積極的な態度を持ってほしい。楽ができる単位ではないが、プレゼンが得意な人も苦手な人も大きく成長することができる。真剣に受けてくれれば、一生長続きする実力がつくことをお約束する。この授業は、経営者や政治家などの大人を対象としたスピーチトレーニングを行っている株式会社カエカの講師陣により行われる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
小野田奈穂			
ナンバリング：G14C11	オンデマンド授業	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 心理学は、人の心のはたらきを研究する学問であり、学習心理学・発達心理学・性格心理学・社会心理学・臨床心理学等、多様な領域にわたる。多様な領域の中から、学生の関心が高く、また学生と関わりが深いと思われるテーマを選び、そのテーマについての理論や概念を学ぶ。日常生活に関連するような内容も含まれているので、各自考えを深め、生活の中で応用できるように具体的な例を多く出しながらか講義をすすめる。 (授業目標) ○B：対人関係にまつわる心理学の理論を通じて、人の話を聴き、自分の考えを上手に伝える力を身につける。 ◎C：日常生活における様々な物事について新しい視点を知ることで、物事を多面的に深く考えられるようになる。
授業計画	1 オリエンテーション 心理学とはどのような学問か？ 2 動機付け “やる気”のこころの働きを知る 3 マインドフルネス マインドフルネスの考え方から心のほぐし方を学ぶ 4 感覚・知覚・認知 人はどのように環境や情報を捉えているのか 5 発達 人の発達を学ぶ 6 青年期の心理 青年期特有の心理発達を学ぶ 7 性格 「人生の木」から見つめなおす 8 対人関係と恋愛心理 心理学の視点から対人関係と恋愛について考える 9 対人関係とコミュニケーション① 自分の気持ちを上手に伝える方法を考える 10 社会の中の心理 人の態度（考え・評価）が変わるときとは 11 集団の心理 集団の力で起こる心理を学ぶ 12 ストレスの心理学 ストレスの仕組みと対処を考える 13 心理療法から学ぶ 日常生活での工夫を学ぶ 14 勉強を頑張るコツ 勉強を頑張るコツを心理学の視点から考える 15 対人関係とコミュニケーション② 人の話を上手に聴く方法を考える
学習成果・到達目標・基準	○B：実際の対人関係の場において、上手なコミュニケーションのための工夫を取り入れて応用できる。 ◎C：日常生活で当たり前として考えることになかったような物事にも違う視点があるということを知り、視野を広げて捉えることができる。
事前・事後学習	事前学習：生活の中で生じる疑問や相談したいような気がかりなことについて意識して考えてみる。(90分) 事後学習：課題に取り組む。また、自身の生活に照らし合わせながら、講義の内容を振り返る。日常生活に取り入れられそうなことを実践してみる。(90分)
指導方法	授業はオンデマンド授業となる。 動画と資料は、毎週月曜日の13時までに配信する。穴埋め形式の資料となるので、各自資料に書き込みながら動画で授業を受講する。毎週金曜日の13時までに、動画を受講した感想や考えたこと、質問等のコメントを提出する。コメントの提出をもって出席とする。コメントの他に、ワークシート等の提出を求めていることがあるが、その際は動画内で指示する。 コメントにあった感想や質問については、次週に動画あるいは資料にて全員にフィードバックする。その他に個別に質問がある場合は、メールにて随時受け付ける。

アセスメント・成績評価の方法・基準	B：受講態度（コメント、課題提出）とレポート課題を評価する。 C：受講態度（コメント、課題提出）とレポート課題を評価する。 レポート課題70% 受講態度（コメントペーパー含む）30%
テキスト	適宜classroomに配信する。
参考書	『心理学』 東京大学出版会 『心理学の基礎 改訂版』 培風館
履修上の注意	他者の心理を読み取る術や他者を操作する方法などは心理学の学問ではないことを理解して受講すること（講義内容にもこのような内容は含まれていない）。心理学は、それぞれが自身の体験に引き付けながら学ぶことにより一層関心を持てる学問であるので、積極的に学ぶ姿勢を持って講義に参加することがのぞましい。授業中の私語や携帯の使用、途中退席等は厳禁。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G14C12	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) この授業では文学を単に読解するのではなく芸術として全体を鑑賞する。芸術によって呼び起こされた“未だ知り得ない自分”を感じとり、それを表出することによって「自分にとってかけがえのないものとは何か」をさぐる楽しさを味わう。芸術に触発されてものごとの本質に触れることの奥深さ、喜びを味わい、心ふるえる経験を積み重ねることにより、生涯を通じて形成される教養・価値観・感性などの基盤づくりを目指す。 (授業目標) B：自分の意見を持ち、相手の意見も受け入れながらお互いを尊重し合うことができる。 ○D：授業で得た知識を理解し、興味を持ったことがらについて主体的に情報を得、学びを深めることができる。 ◎E：自分なりの言葉を用い、授業で得たことについて表現することができる。
授業計画	1 オリエンテーション(グループディスカッション) 授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 教材を踏まえたグループディスカッション ICT：パソコン、スマートフォン(双方向型授業に活用) 2 芸術と出会うということ(グループディスカッション) 2つで1つのものとは何か ゴッホの手紙、セザンヌとモネ(小林秀雄) ICT：パソコン、スマートフォン(双方向型授業に活用) 3 彫刻：船越保武／神谷美恵子『生きがいに』(グループディスカッション) 美しさとは何か、生きがいは何か ICT：パソコン、スマートフォン(双方向型授業に活用) 4 絵本『てぶくろを買いに』『泣いたあかおに』『おにたのぼうし』(グループディスカッション) 異文化理解、相互理解 ICT：パソコン、スマートフォン(双方向型授業に活用) 5 『ベスト』、『十牛図に学ぶ』 不条理について ICT：パソコン、スマートフォン(双方向型授業に活用) 6 中原中也『在りし日の思い出』(グループディスカッション) 他と比べられない世界 ICT：パソコン、スマートフォン(双方向型授業に活用) 7 ミハヤエル・エンデ『モモ』 人と何かを共有することの豊かさ ICT：パソコン、スマートフォン(双方向型授業に活用) 8 東山魁夷という文学(グループディスカッション) あちらとこちらの世界をつなぐもの ICT：パソコン、スマートフォン(双方向型授業に活用) 9 夏目漱石『夢十夜』(グループディスカッション) 名作の色と香り ICT：パソコン、スマートフォン(双方向型授業に活用) 10 サンテグジュペリ『星の王子さま』 経験からでしか学べないこと ICT：パソコン、スマートフォン(双方向型授業に活用) 11 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』 ほんとうの幸い ICT：パソコン、スマートフォン(双方向型授業に活用) 12 ディケンズ『クリスマス・キャロル』 これまでの作品に共通していること ICT：パソコン、スマートフォン(双方向型授業に活用) 13 世界と日本の美意識(1) 絵画や工芸を中心に 14 世界と日本の美意識(2) 絵と文字の交わり 15 世界と日本の美意識(3) 今の我々の生活とどうつながっているのか
学習成果・到達目標・基準	B：他者の言葉に耳を傾けながら、自分の意見も人に伝えることができる。 ○D：授業で得た知識を理解し、人に伝えることができる。 ◎E：授業で学び得たことについて味わい感じたことを、表現することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろから美術、音楽、文学などジャンルを問わずさまざまな芸術と出会う機会を持つ。(60分程)

	度) 事後学習：授業で学んだことからの要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。(60分程度) 授業中に紹介された本や資料を読み、芸術一般についての興味・関心を広げる。(60分程度)
指導方法	すぐれた芸術作品に触れ、演習(グループディスカッション、ペア・ワーク)を踏まえたリアクションを毎回書くことにより、自分が感得したものと丁寧に向き合う。正解よりも思考を深めることを重視する。パワーポイントを中心に講義をおこない、必要に応じて視聴覚教材も使用する。 フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：相手の意見を受け入れつつ、自分の意見も持つ積極的な姿勢を評価する。 D：提出物、試験によって評価する。 E：提出物、試験によって評価する。 定期試験：60%、授業後の提出物：30%、授業参加態度：10%(総合的に評価する)
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	個人で取り組む課題や意見を交換しながらの演習があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要であるため、課題は必ず提出すること。受講者の興味・関心等に応じて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ペア・ワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
ナンバリング：G14C13	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 国語力の四要素(話す・聞く・書く・読む)のトレーニングを総合的に積みあげるにより複眼的思考、論理的思考といった考えかたの基礎力を養う。ペア・ワーク等で課題に取り組むことによりコミュニケーション力を高め社会で活用できる日本語の力を身につける。 (授業目標) ○B：受信した情報について考え、意見をまとめ、根拠を提示しながら発信することができる。 ○D：授業で学んだ日本語の知識について理解し、使用することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス (ペア・ワーク) 言葉をめぐるワーク、授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明 ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)</p> <p>2 感じのいい話しかた (ペア・ワーク) コミュニケーションの基礎、日本語の音声 ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)</p> <p>3 敬語 (ペア・ワーク) 社会人基礎力を身につけるために (1) ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)</p> <p>4 母語の大切さ (ペア・ワーク) 外国語から見た日本語の特徴 ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)</p> <p>5 辞書のいろいろ (ペア・ワーク) 辞典の特色を学ぶ ICT：パソコン、スマートフォン (自主学習に活用)</p> <p>6 説明のしかた (ペア・ワーク) 根拠ある意見の述べかた ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用)</p> <p>7 絵の分析 (ペア・ワーク) 論理的文章の書きかた (初級) ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用)</p> <p>8 テキスト分析 (1) (ペア・ワーク) 論理的文章の書きかた (中級) ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用)</p> <p>9 テキスト分析 (2) (ペア・ワーク) 論理的文章の書きかた (上級) ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用)</p> <p>10 話し言葉と書き言葉 (ペア・ワーク) 社会人基礎能力を身につけるために (2) ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)</p> <p>11 対義語 (ペア・ワーク) ことばのニュアンスを感じ取る、注意深く言葉を選ぶ ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)</p> <p>12 文章表現の工夫 (ペア・ワーク) 文章の工夫いろいろ ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)</p> <p>13 オノマトペ (ペア・ワーク) 私たちの言語生活を豊かにするために ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)</p> <p>14 日本語の文字 (ペア・ワーク) 私たちが使用する文字の由来 ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)</p> <p>15 言葉遊び 言葉を分解し再構築することで新たな世界を生み出す ICT：パソコン、スマートフォン (双方向型授業に活用、自主学習に活用)</p>
学習成果・到達目標・基準	○B：他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を人に伝えることができる。 ○D：授業で学んだ日本語の知識について理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろからジャンルを問わずさまざまな本(活字)に触れ、多様な言葉の感覚を磨く。(60分程度) 事後学習：授業で学んだ日本語の知識について要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。(60分程度)

	度) 授業中に紹介された本や資料を読み、日本語について興味・関心の幅を広げる。(60分程度)
指導方法	ペア・ワーク(対話)を中心として、正解よりも考えることを重視した授業を行う。テーマごとに口頭演習した内容を文章で再確認することにより、日本語コミュニケーション力を「話す・聞く・書く・読む」の観点から総合的に養う。講義は主にパワーポイントで進め、視聴覚教材も適宜利用する。 フィードバックのしかた：課題の成果を授業中に共有し、講評する。質問には個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペア・ワークにおける聞く態度や、授業中の積極的な発言、提出物を評価する。 D：試験によって評価する。 定期試験：60%、授業中の課題提出30%、授業参加態度10%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	ペア・ワークや個人で取り組む課題があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要である。
アクティブ・ラーニング	ペア・ワーク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
ナンバリング：G14C14			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 「健康」という大きなテーマの中から、現代社会が及ぼす心身への影響について重点をおきながら、自身の「健康」とは何かを探る授業とする。 健康に関する知識を修得するとともに、グループワークを実施し、他者との意見交換を実施し自身の考えを深める。 (授業目標) ○A：学生間のグループ討議を通して積極的に人と意見交換を実施し、生涯に通ずる「健康」のあり方を自分自身で探ることができる。 ◎D：現代社会が及ぼす心身への影響についての知識を身につけることができる。
授業計画	1 ガイダンス 目的、授業における留意点、成績評価、自分にとっての健康とは何か 2 健康の定義（グループワーク：グループごとにまとめを発表） WHOによる健康の定義 3 身体と教育 第二次世界大戦前～第二次世界大戦後～現代 4 現代社会と健康1 日本の健康問題 5 現代社会と健康2（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 世界の健康問題 6 現代社会におけるストレスと健康のかかわり1 身体の健康とメンタルヘルス 7 現代社会におけるストレスと健康のかかわり2 ストレスとストレスコーピング 8 人間関係 話す力と聞く力について考える 9 発達段階と健康1（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 幼児期における運動の意義 10 発達段階と健康2 健康と余暇活動を考える 11 発達段階と健康3（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 高齢者における健康 12 ライフスタイルと健康 生体リズムと睡眠 13 救急法 障害時の救急、災害時の対応 14 女性の健康（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 女性の身体について 15 健康とは 生涯を通じて自分にとって健康とは何かを考える
学習成果・到達目標・基準	○A：他者の意見を聴き、その上で自身の考えをまとめることができる。 ◎D：現代社会の課題について理解し、自身のライフスタイルと関連づけることができる。
事前・事後学習	事前学習：健康に関するニュースや本に眼を通すように心がける。（90分程度） 事後学習：授業で得た知識を一過性のもので終わらせないように、毎授業終了時にGoogleフォームを作成する。また、個人で配布した資料を整理し、実践していくようにこころがける。（90分程度）
指導方法	講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。 適宜、グループワークを取り入れる。 意見交換を積極的に行う中で「健康とは何か」を自覚できるようにする。 フィードバックの仕方：Googleフォーム提出後、評価の上返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループ討議での態度、授業への貢献度を評価する。 D：授業終了時のまとめプリント・レポート、定期試験を評価する。 受講態度10%、授業終了時に提出するGoogleフォーム・レポート30%、定期試験60%

テキスト	なし 必要な資料・プリントをその都度配布する。
参考書	「健康管理能力検定3級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康管理能力検定2級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康・体力・スポーツ 大学生のための保健体育理論」 横浜保健体育理論研究会 編 学術図書出版 「人間関係づくりトレーニング」 星野欣生著 金子書房 「健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方」 田口貞善監修 講談社
履修上の注意	自分にとっての健康とは何かを考えながら、積極的な姿勢で授業へ臨むこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
五十嵐淳子			
ナンバリング：G14C15	オンデマンド授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 子どもの発達段階を踏まえ、子どもの育ちを支えるために求められる知識と保育技術、保育・教育内容にかかわることを総合的に学ぶことを目的とする。子どもの遊びと成長について理解し、子ども一人ひとりに寄り添うための必要な知識や教材を紹介するとともに、教材を製作し使用できるための実践的な理解の習得を目指す。 (授業目標) ◎D：子どもの発達の道筋を知り、子どもの成長を育むために必要な知識を修得できる。子どもの発達を学び、子どもに必要な関わりや現代の子育てを取り巻く問題について自分なりの考えをもつことができる。 ○E：保育教材の製作を通して豊かな感性を身に付けることができる。
授業計画	1 オリエンテーション 子どもの成長とは 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 2 グローバル化と子ども グローバル社会における子どもの理解 3 胎児期と母親 子育て支援の事例から 胎児期と母親の子育て支援 4 乳幼児期の発達過程と遊び 乳幼児期の発達と子どもの遊びについて 5 子どもと言葉 子どもの言葉の発達から見る子どもの英語教育 6 保育教材について 子どもと一緒に楽しむことができる保育教材の製作 7 国際理解と教育・保育 ドイツの事例を通じた国際理解教育と保育 8 小学校への入学 就学前の保育から小学校への接続期について扱う。小学校に入学するまでに身につけたい力について概説する、また、小学校に入学する子どもの発達の特徴について、概説する。 9 児童期の教材について 小学校の児童を対象とした児童期における教材の製作 10 小学校低学年から高学年 小学校低学年から高学年の児童の発達の特徴について 11 現代社会を取り巻く子育てと保育 現代の子育てと保育を取り巻く現状と課題 12 子どもの遊び①：絵本の製作 絵本の意義について理解を深めるため、実際にミニ絵本を製作する 13 子どもの遊び②：保育教材 保育教材について学び、実際に子どもが喜ぶおもちゃ(くるくるペープサート)を製作する 14 多文化理解と子育て支援 多文化理解に視点を置いた地域子育て支援の実際 15 子どもの成長と多様な経験の重要性 子どもの成長と多様な経験やパースペクティブな考え方
学習成果・到達目標・基準	◎D：子どもの発達段階を踏まえ、子どもにとって必要な環境や教材について理解することができる。 ○E：子どもの成長にとって必要な教材を使用した保育実践について理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読み、保育や子育てに関する新聞やニュース、文献等をまとめておく。(100分) 事後学習：授業時に学習した箇所のテキストや内容を見直し、自分の考えをまとめる。課題が出された場合、課題に取り組む。(100分)
指導方法	テキストとパワーポイントを使用しながらGoogle Classroomよりオンデマンド配信の授業を行う。パワーポイントの授業内容及び課題は毎週月曜日午前中に配信するので、その週の木曜日までにその週の課題を提出すること。課題の提出をもって出席とする。 メールでの質問は随時受け付けるが、原則として質問はGoogle Classroomから水曜日までにしておくこと。水曜日までの質問事項については、金曜日まで返信する。課題へのフィードバックは次週の授業で全体に対して行うようにする。必要に応じて、適宜Google Classroomより個別に行う。

アセスメント・成績評価の方法・基準	D：レポートの記述内容を評価する。 E：製作した教材を評価する。 授業への意欲・態度20%、教材製作20%、レポート60%で評価する。
テキスト	五十嵐淳子編著『国際関係の学びーグローバル社会の子どもの未来を見据えてー』大学図書出版、2021年
参考書	授業の際に紹介する
履修上の注意	グーグルクラスルームを使ったオンデマンド授業となります。 ミニ絵本、保育教材の製作では各自必要なものを準備(画用紙、はさみ、のり、色ペン、色鉛筆)して、各自で制作することになります。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：織田陽一）			
ナンバリング：G14C16	オンデマンド授業	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業内容) 世界の有名な遺産100件と日本の遺産全25件の中から、テキスト・スライド画像・動画を用いて講義します。古代遺跡やヨーロッパの建築、大自然の絶景や神話的な地域など、世界旅行の気分を味わいながら、世界遺産検定3級合格のためのポイントを学習します。 (授業目標) 「社会人に必要な知識や教養」の獲得を目指し、「知的関心」をもって学修する心構え、「異なる考え方や異なる文化を持つ人々」を理解する能力を身に付けます。 ○C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できる。 ○C：世界の動きに対する関心を高め、批判の目で自分の意見を発表できる。 ◎D：7月3日(日)の世界遺産検定を受験し、3級合格する。
授業計画	1 イントロダクション なぜ世界遺産を学ぶのか 2 世界遺産の基礎知識1 ユネスコと世界遺産条約、世界遺産誕生のきっかけ 3 世界遺産の基礎知識2 登録までの流れ、世界遺産の種類と数、危機遺産と負の遺産 4 日本の世界遺産1 知床、北海道・北東北の縄文遺跡群、白神山地、平泉、日光の社寺、富岡製糸場と絹産業遺産群、小笠原諸島、ル・コルビジエの建築作品 5 日本の世界遺産2 富士山、白川郷・五箇山の合掌造り集落、古都京都の文化財、古都奈良の文化財、法隆寺地域の仏教建造物群、紀伊山地の霊場と参詣道、姫路城、石見銀山遺跡とその文化的景観 6 日本の世界遺産3 厳島神社、原爆ドーム、明治日本の産業革命遺産、『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、屋久島、琉球王国のグスク及び関連遺産群、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島 7 基礎知識と日本の世界遺産の復習 6回目までの総復習 8 世界の文化遺産1 人類誕生とヨーロッパ古代文明、アジア世界の形成と宗教 9 世界の文化遺産2 ヨーロッパ中世、アメリカ、アフリカ、オセアニア 10 世界の文化遺産3 近代国家の成立と世界の近代化、危機遺産、時事問題 11 世界の自然遺産 世界の自然遺産 12 検定直前確認テスト 第48回世界遺産検定に向けた直前の確認テスト 13 検定問題の解説 第48回世界遺産検定の3級問題の解説 14 最新動向の解説 世界遺産の新規登録に関する状況など 15 自分の意見の発表 発表
学習成果・到達目標・基準	○C：世界遺産を通して、「地球上の多様な価値観」を理解する。 ○C：世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。 ◎D：世界遺産検定3級レベル試験で60%以上の得点を取得することができる。
事前・事後学習	事前学習：講義テーマに対する、教科書の該当箇所を事前に読んでおく。(90分) 事後学習：授業後には当日実施した内容を振り返り、知識を深める。(90分)
指導方法	指導方法： テキストとスライド画像、講義資料（プリント）を用いて、Google Classroomを通じて講義を進めるオンデマンド授業です。内容を理解しやすいよう、世界旅行をしているような気分を味わいながら、授業を進めます。 出欠チェック・課題提出・質問方法： ※動画および課題は毎週月曜日午前中に配信します。

	<p>※木曜日17時までにその週の課題を提出してください。期限まで課題提出すれば出席とします。</p> <p>※授業内容・課題提出に関する質問は、Google Classroomから水曜日まで送ってください。金曜日までに返信します（メールでの質問は随時受け付けます）。</p> <p>※課題へのフィードバックは、次週の動画で説明します。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>C：「地球上の多様な価値観」を理解し、環境保全や国際平和の重要性を認識できているかを検定試験で評価する。</p> <p>C：世界の動きに関する自分の意見を発表し、それを評価する。</p> <p>D：検定試験直前確認テストの結果を評価する。</p> <p>検定試験：60%</p> <p>授業貢献度（自分の意見）：20%</p> <p>検定試験直前確認テスト：20%</p> <p>※検定合格で成績評価1ランクアップ（例B評価の場合→A評価に）</p>
テキスト	<p>きほんを学ぶ世界遺産100<第3版> 世界遺産検定3級公式テキスト</p> <p>世界遺産検定公式過去問題集 3・4級 <2022年度版></p>
参考書	
履修上の注意	<p>世界遺産検定の申込方法は別途、授業で案内します。</p>
アクティブ・ラーニング	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
白川はるひ			
ナンバリング：G14C17			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 女性に関するテーマを切り口に日本社会を読み解いていく。そこから立ち現れる現代社会の傾向や課題、それぞれの関連性や原因を理解し、今を生きる当事者である自分がどのように行動していくべきかについて思索する。 (授業目標) ひとりの社会構成者として、社会への問題意識と参画意識をもつ。 ◎C：授業で扱った課題を自分事として捉え、解決策の提示と自らとるべき行動について説明することができる。 授業で扱う課題同士やその他の社会的課題との関連性について考え、論理的に説明することができる。 ○D：授業で扱う諸課題の現状について、データを示しながら適切に説明することができる。
授業計画	1 授業ガイダンス、日本社会の抱える課題を概観する（グループワーク） ・ガイダンス（授業内容、授業方法、評価方法に関する説明、諸注意） ・現代日本社会でみられる女性をめぐる課題をひとつを取り出し、現代の特質を考える 2 「女性らしさ」とは（グループワーク） ・「女性らしさ」とは何かを考える 3 人口減少社会と女性（グループワーク） ・人口減少の現状から女性の生き方を探る 4 女性と仕事1（グループワーク） ・就職・昇進など、女性の就業に関する現状と課題についてグループ学習 5 女性と仕事2（ディスカッション） ・女性の就業に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明 6 女性と育児1（グループワーク） ・仕事と育児の両立、「孤育て」など、育児に関する現状と課題についてグループ学習 7 女性と育児2（ディスカッション） ・育児に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明 8 女性と貧困1（グループワーク） ・男女の賃金格差など、女性の貧困に関する現状と課題についてグループ学習 9 女性と貧困2（ディスカッション） ・女性の貧困に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明 10 女性と教育1（グループワーク） ・男女の学歴差など、女子教育・女性教育に関する現状と課題についてグループ学習 11 女性と教育2（ディスカッション） ・女子教育・女性教育に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明 12 女性と政治1（グループワーク） ・政治家の男女比率の格差など、女性と政治に関する現状と課題についてグループ学習 13 女性と政治2（ディスカッション） ・女性と政治に関する現状と課題についてグループ発表・ディスカッション、補足説明 14 現代の日本社会を理解する（グループワーク） ・これまで扱ってきた諸課題の関連性を検討する 15 より良い社会を目指して（プレゼンテーション） ・日本社会でみられる女性問題に関してテーマを絞り、プレゼンテーション（現状説明、解決策提示など） ・まとめ
学習成果・到達目標・基準	◎C：授業で扱った現代社会の課題解決に向けて、自らとるべき行動を考え説明することができる。 授業で扱う課題同士の関連性を図示して説明することができる。 ○D：授業で扱う諸課題の現状について概要を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習： ・毎日のニュースチェック（30分） ・課題文を読み、必要事項を調べながら予習ワークシートに取り組む（90分） 事後学習： ・Googleフォームでの事後課題に取り組む（30分） ・他の履修学生の意見をまとめたプリントを読むなどして、授業内容に関する理解や自分の考えをさらにを深める（60分）
指導方法	授業は主に一つのテーマにつき次の流れで学びながら理解を深めていく。①各自での課題文の読み込み・資料調べ・ワークシート作成 ②グループ内でのディスカッション、問いづくり ③全体での発表 ④補足説明

	<p>⑤意見のまとめとシェア。 最終的には、授業で扱ったテーマのなかから1つを選び、プレゼンテーションにて自らの意見をまとめる。</p> <p>フィードバックの方法： <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションについては学生同士の相互フィードバックおよび教員からのコメントにて行う。 ・提出物については、クラス全体に対して教室あるいはGoogle Classroom上にて行う。 必要に応じて個々にコメントする。 <ul style="list-style-type: none"> ・Web上での確認テストは、受験後に正解を提示する。 ・必要に応じてルーブリックを活用しながらフィードバックを行う。 </p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>C：提出物、最終課題、授業貢献度にて評価する。 D：提出物、最終課題、授業貢献度、定期試験にて評価する。</p> <p>提出物 45%、 最終課題（プレゼンテーション） 15%、 授業貢献度（発言内容、参加度） 10%、 定期試験 30%</p>
テキスト	なし。適宜プリント教材を配布する。
参考書	<p>松田健『テキスト現代社会学 第3版』ミネルヴァ書房, 2016 岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学 多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣ストゥディア, 2015 加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア, 2017 小杉礼子・宮本みち子 編著 『下層化する女性たち 労働と家庭からの排除と貧困』勁草書房, 2015 他</p>
履修上の注意	<p>時事問題が得意でないが理解を深めたいと考えている学生、ディスカッションは得意でないがその力を伸ばしたいと考えている学生の参加も歓迎する。理解を深めること、ディスカッションスキルを伸ばすこと、その両方を目標に履修して欲しい。 テーマごとの課題に充分取り組んでこそそのディスカッションとなるため、それを心得て履修すること。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：G14C18	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	近年、小売業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、小売業者による生活者ニーズに合った店づくり、商品の品揃えなど満足のいく対応が求められている。本講義は、流通における小売業の基本的役割を理解し、流通経路の重要性や店舗形態別小売業の特徴を解明していく。さらに、中小小売業の現状と役割、商業集積の変遷や課題についても取り上げる。「リテールマーケティング（販売士）検定3級」受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界の第一線で活躍できる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：製造業、卸売業、小売業の基本的役割および流通のしくみを理解し、店舗形態別小売業の現状と課題を述べるができる。
授業計画	<p>1 流通とは何か 流通のしくみ、小売業および卸売業の機能と役割について</p> <p>2 店舗形態別小売業の基本的役割（1）百貨店 歴史と売上高低迷の要因、自主マーチャンドライジングの取り組みについて</p> <p>3 店舗形態別小売業の基本的役割（2）専門店 専門店と専門店の相違、SPAとセレクトショップ、カテゴリーキラーについて</p> <p>4 店舗形態別小売業の基本的役割（3）スーパーマーケットと総合品ぞろえスーパー チェーンストア展開によるスケールメリットについて</p> <p>5 店舗形態別小売業の基本的役割（4）コンビニエンスストア 出店方法と運営上の特徴、本部と加盟店の関係について</p> <p>6 店舗形態別小売業の基本的役割（5）ホームセンター、ドラッグストア 品ぞろえの特徴、売場の拡大について</p> <p>7 組織形態別小売業の基本 レギュラーチェーン、フランチャイズチェーン、ボランタリーチェーンの特徴について</p> <p>8 無店舗販売の形態 訪問販売、移動販売、通信販売の特徴、O2OからOMOの変遷について</p> <p>9 グローバルリテラーの特徴 アウトレットストア、スーパーセンター、ホールセールクラブの特徴について</p> <p>10 商業集積の基本（1）商店街 歴史的変遷、現状と課題について</p> <p>11 商業集積の基本（2）ショッピングセンター 商圏別分類と特徴について</p> <p>12 製造業の流通経路政策 開放的流通チャンネル政策、選択的流通チャンネル政策、排他的流通チャンネル政策について</p> <p>13 卸売業の機能と役割 需要結合、情報伝達、金融、リスク分散、物流、リテールサポートについて</p> <p>14 小売業の機能と役割 小売業が消費者に提供している便益について</p> <p>15 流通業における社会的活動 ソーシャルマーケティング、持続可能な生産流通について</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：小売業に関する流通チャンネルや業種・業態の特徴について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新規出店やリニューアル、新業態に関するニュースを確認する（60分程度）。分からない専門用語を調べてまとめておく（60分程度）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（60分程度）。
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：課題に関する質疑は、個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。

参考書	<p>「販売士ハンドブック（基礎編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応～」日本商工会議所編、株式会社キャリアック 「1回で合格！リテールマーケティング検定3級過去問題集」上岡史郎著、成美堂出版。</p>
履修上の注意	<p>服飾芸術科の学生で「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す場合は、本科目と「店舗運営」「販売管理」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>特になし</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G14C19			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 宇宙や地球レベルの話から個々の生活レベルの話まで範囲は広がるが、一つひとつは物質と生命との相互作用で繋がっていることを理解する。また、地球の自然が作られた歴史や物質や生命の歴史を辿り、人間活動との関わりの理解を深める。更に、データサイエンスや、心の問題にも焦点を充て、グローバルかつローカルな環境と人間に係わる問題を考える。 (授業目標) ◎C：環境の知識を活用し、環境問題の本質を理解することができる。 ○D：環境問題を地理や歴史と体系立てて理解することができる。
授業計画	<p>1 生きている地球 地球上の季節の変化や、生命の営みについて理解する。</p> <p>2 アリストテレスの四元素と暦 星座や、二十四節気について理解する。</p> <p>3 星と太陽系の惑星 星や太陽系の惑星の知識を修得し、かけがえのない地球を考える。(グループ発表)</p> <p>4 地球の歴史 地球46億年の歴史を辿る。</p> <p>5 酸素とオゾン 生活環境で絶対に必要な酸素について考え、オゾンの知識を習得する。(グループ発表)</p> <p>6 水 身近な水について考える。</p> <p>7 データサイエンスの演習 ビッグデータを用いて、データ解析の楽しさを学ぶ。(グループ発表)</p> <p>8 心のエネルギーの活性 心の問題を、古典から解き明かし学ぶ。</p> <p>9 日本の世界遺産 日本の誇るべき世界遺産について学ぶ。(グループ発表)</p> <p>10 地球温暖化について 化石燃料とエネルギー問題、地球温暖化による生態系への影響を理解する。</p> <p>11 芝公園の環境について調べる(フィールドワーク) 芝公園に出かけ、環境について考える。</p> <p>12 世界や日本の河川と身近な河川 世界や日本の河川について学び、川の水質について調べる。</p> <p>13 人間の歴史と公益(ゲスト講師) ゲスト講師が、人間の歴史と公益の観点から講義を行う。</p> <p>14 生物の寿命とメス・オス ヒトや他の生命の寿命を考え、メスとオスの役割を認識する。</p> <p>15 地球レベルと個々の生活(グループ発表) Think globally, act locally.</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：身のまわりの環境を理解することができる。 ○D：身近な環境問題について考えることができる。
事前・事後学習	事前学習；プリントを読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習；配布されたプリントを復習し、演習問題を再度解く(90分程度)
指導方法	配布するプリントや、パワーポイント等を使用して講義を進める。 また、科学等のテーマでグループ発表を行う。 フィードバックの仕方：プリント返却時に指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：環境の問題について定期試験で評価する D：環境について定期試験で評価する 定期試験80%、受講態度20%
テキスト	毎回プリントを配布する。
参考書	『地球環境化学入門・改訂版』J.E. アンドリュース著、渡辺正翻訳(丸善出版)

履修上の注意	記入式のプリントを配布する。 講義を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行う。
アクティブ・ラーニング	グループ発表がある。また、フィールドワークがある。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G14C20			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 物質の構成や結合を理解し、化学の基本となる物質の考え方を身につける。化学反応式を理解し、中和反応や酸化還元反応を学ぶ。また、有機化学は炭素を中心とした独特の世界が広がっており、生命現象の根本となる有機化学をわかりやすく説明していく。高校で理論化学や有機化学を履修しなかった場合にも対応できるように行っていく。演習も重要視する。 (授業目標) ◎C：化学の知識を使って、ミクロな物質の仕組みを理解する。 ◎D：モルを理解し、有機化学を系統立てて理解する。
授業計画	<p>1 周期表 化学に親しむために、周期表に関することを学ぶ。(個人の発表)</p> <p>2 物質と原子：物質の成分、構成要素 純物質と混合物、原子や分子、原子内の電子配置を学ぶ。</p> <p>3 価電子、原子量・分子量 最外殻電子や、原子量について学ぶ。</p> <p>4 化学結合 イオン結合や共有結合について学ぶ。</p> <p>5 物質の三態 物質の状態変化について学ぶ。</p> <p>6 物質量 モルについて学び、演習を通し理解を深める。</p> <p>7 化学反応と化学反応式 化学反応式について理解する。</p> <p>8 酸・塩基、中和 酸と塩基の強弱や、中和反応を理解する。</p> <p>9 酸化還元反応 酸化数や還元数について理解し、酸化・還元剤の知識を修得する。</p> <p>10 炭素の結合について 有機化学の根本となる炭素の性質について理解する。</p> <p>11 官能基と異性体 主要な官能基を覚え、異性体を理解し演習を行う。</p> <p>12 脂肪族炭化水素、アルコール 二重結合や三重結合の知識を修得し、アルコール類の種類や性質を学ぶ。</p> <p>13 糖質の化学 三大栄養素の1つである糖質を学ぶ。</p> <p>14 脂質の化学 三大栄養素の1つである脂質を学ぶ。</p> <p>15 タンパク質の化学 三大栄養素の1つであるタンパク質を学ぶ。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：化学の知識を使って計算問題を解くことができる。 ◎D：化学の単位を理解し、炭素の性質等を考えることができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストや参考書を読み関連のある箇所について学ぶ(90分程度) 事後学習：テキストや配布されたプリントを復習する(90分程度)
指導方法	テキストに従って授業を進める。また、随時プリントを配布し、パワーポイント等を使用して講義を進める。 フィードバックの仕方：数回小レポートにて理解度を確認し、返却時に指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：化学の知識や計算問題について定期試験で評価する。 D：モルや有機化学等を定期試験で評価する。 定期試験80%、受講態度20%
テキスト	『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』数研出版編集部編(数研出版)

参考書	
履修上の注意	授業を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行うようにする。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
ナンバリング：G14C21			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 細胞・生殖・遺伝現象や、生物の成り立ちと種族維持の仕組みについて理解し、生命の連続性の見方や考え方を身につける。ヒトの体を知ることは生物学の本質であるが、その不思議なメカニズムや働きを知り、生命の大切さや尊厳について学ぶ。また、生物の進化や今地球上でどのような問題が起こっているのかについても焦点を充てる。 (授業目標) ◎C：生物学の知識を使って、生命の本質や地球環境問題への思考力を身につける。 ○D：生物学の知識を理解し、生物学を系統立てて理解する。
授業計画	1 植物と動物 さまざまな生き物の特性を学ぶ。(発表) 2 ゴリラの生活と生態 ヒトとほとんどDNAに近いゴリラについて考える。 3 生命の起源と進化と古細菌 生命の起源や、進化の過程を理解する。 また、生命の故郷・海について考える。(グループ発表) 4 細胞 ミクロの世界の現象を考える。 5 細胞膜 細胞膜の特殊な魅力を考える。 6 生殖と遺伝 さまざまな生殖の特色を学ぶ。メンデルの法則や、遺伝について学ぶ。(グループ発表) 7 芝公園における植物観察(フィールドワーク) 校外実習(植物観察を行いレポートを提出する) 8 ヒトの体 ヒトの体の絶妙な仕組みについて学ぶ。(グループ発表) 9 五感(目・耳・舌・鼻・皮膚) 五感の働きについて理解する。 10 酸素と呼吸(有機物の分解) 嫌気呼吸と好気呼吸の仕組みについて理解する。(グループ発表) 11 光合成(有機物の生成) 有機物の生成について理解する。 12 血液とホルモン 体内環境と体液について学ぶ。(グループ発表) 13 脳(神経の働き) 刺激と受容や、神経系について学ぶ。 14 DNA DNAの構造や、DNAの複製を理解する。(グループ発表) 15 地球環境問題 森林衰退や地球温暖化について考える。(グループ発表)
学習成果・到達目標・基準	◎C：生物学の知識を使って、生命の本質や地球環境問題について考え実践することができる。 ○D：生物学の知識を理解し、生物学を系統立てて考えることができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストを読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習：テキストや配布されたプリントを復習する(90分程度)
指導方法	テキストやプリントに従って授業を進める。また、パワーポイント等を使用して講義を進める。 フィードバックの仕方：数回小レポートにて理解度を確認し、返却時に指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：生物の知識を使って、生命の本質の理解についてレポートで評価する。 D：生物学を系統立てて考えられるかをレポートで評価する。 レポート80%、受講態度20%
テキスト	『視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録』数研出版編集部編(数研出版)
参考書	

履修上の注意	授業を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行うようにする。
アクティブ・ラーニング	個人の発表や、グループ発表がある。また、フィールドワークがある。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
押切孝雄、布施梓、中村公子（契約講師：小山洋行）			
ナンバリング：G15A22	オンデマンド授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 現代社会においては、あらゆる職業においてPCとネットの活用が求められていると言っても過言ではない。本授業ではメール、インターネット、キーボードタイピング、ワープロ、表計算といった一般的に社会人に必要とされている技術を初歩から学ぶ。 文書作成・表計算・プレゼンテーションソフトの基本操作だけではなく、昨今多発しているコンピューター犯罪や炎上事件などのインターネットに関するトラブルから身を守る為の術を身につけることも本授業の目的である。 (授業目標) ○D：社会におけるコンピューターやネットワークに関する諸問題を理解し、その回避方法・解決方法を説明できる。 ◎E：PCを使用して自分の考えをまとめ、適切なアプリケーションを使用しドキュメント化することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業概要と他の科目との関係について ・Gmailの使い方、メールの作法（教員へのメール文例、「署名」の設定など） ・情報セキュリティ動画視聴「あなたのパスワード大丈夫？」 <p>2 本学の情報システム：学生用情報システムの設定確認と基本操作を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブポータル、設定と操作 ・Zoomの利用方法や、画面の共有方法 ・情報セキュリティ動画視聴「あなたの書き込みは世界中でみられている」 <p>3 PC基本操作：OS操作を中心にPCの基本操作と用語を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC、タブレット、スマホなど情報機器の用途や用語の学習 ・Google Classroomと教材・課題のDLの方法と提出方法 ・情報セキュリティ動画視聴「スマートフォン乗っ取り（デモ）」 <p>4 Google DriveとSlide</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Driveの仕組みや共有の注意点 ・Google Slideの作成と共有方法 ・Google keepでToDoリストをつくる ・情報セキュリティ動画視聴「その警告メッセージ、信じて大丈夫」 <p>5 Google DocumentとSpreadsheet</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Documentの作成と共有方法 ・Google Spreadsheetの作成と共有方法 ・Google formの使い方、QRコードを生成、アンケートを取る方法 ・情報セキュリティ動画視聴「乗っ取りの危険性があなたのスマホに」 <p>6 MS Office</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MS Officeのインストール（希望する場合に大学のライセンスでインストール） ・アプリの起動とファイル（Word、Excel、PowerPoint）の新規作成 ・ファイル操作とフォルダ管理 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、出会い系サイト」 <p>7 MS PowerPoint 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規作成 ・テーマの適用 ・プレースホルダー ・箇条書きテキスト ・スライドの実行 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ネットショッピング」 ・関数の入力 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ネットショッピング」 <p>8 MS PowerPoint 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オブジェクトの挿入 ・スライドの構成の変更 ・画面切り替え効果の設定 ・アニメーションの設定 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、SNS」 <p>9 MS PowerPoint 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPoint演習問題 ・情報セキュリティ動画視聴「大丈夫、あなたのスマートフォン」 <p>10 MS Excel 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規作成 ・データの入力 ・保存 ・罫線の設定 ・数式の入力

	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の入力 ・情報セキュリティ動画視聴「ネットの危ない罠、ワンクリック詐欺」 <p>MS Excel 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表示形式の設定 ・列幅の変更 ・書式のコピー ・情報セキュリティ動画視聴「あなたのスマートフォン、ウイルスが狙っている」 <p>MS Excel 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Excelによる情報分析 ・グラフの活用 ・Excel演習問題 ・情報セキュリティ動画視聴「スマートフォンのワンクリック請求」 <p>MS Word 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規作成 ・配置の設定 ・フォントの設定 ・段落番号と箇条書き ・文字数と行のカウンタ ・保存 ・情報セキュリティ動画視聴「デモで知る標的型攻撃による乗っ取り」 <p>MS Word 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像の挿入 ・SmartArtグラフィック ・表の作成 ・他のアプリのオブジェクトを貼り付ける ・情報セキュリティ動画視聴「陽だまり家族とパスワード」 <p>MS Word 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表番号の設定 ・ページ罫線 ・ワードアート ・段組み ・タブとリーダー ・PDFファイルとして保存 ・Word演習問題（最終課題）
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：コンピューター犯罪や炎上事件などのネットに関するトラブルの例を説明できる。</p> <p>◎E：Word、Excel、PowerPointを用いた基本的な文書や表計算の作成、プレゼンテーションの作成や操作ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：シラバスを参考に、次回使用するアプリケーションについて各自学習する。特に新しいアプリケーションを使用する回の前には、自宅のPCで該当するアプリケーションが正しく起動するかを必ず確かめる。(20分)</p> <p>日々のニュース、特にネットワークやセキュリティに関する情報をチェックする。(20分)</p> <p>事後学習：課題演習の多い授業である。苦手なアプリケーションの操作は次週までに克服するよう各自学習する。必要に応じてタッチタイピングの練習も行うこと。(20分)</p>
指導方法	<p>Google Classroomを通じて、スライド資料と講義動画で進めるオンデマンド授業である。オンデマンド動画および課題は毎週月曜日午前中に配信する。木曜日までにその週の課題を提出すること。課題の提出をもって出席とする。課題の提出はGoogle Classroomを利用する。</p> <p>課題へのフィードバックは翌々週までのオンデマンド動画のなかで全体に対して行う。課題再提出の指示など、フィードバックは必要に応じて、適宜Google Classroomより個別に行う。メールでの質問は随時受け付ける。質問はGoogle Classroomから水曜日までにしておくこと。極力金曜日までに返信する。質問の多い事項は、翌週以降のオンデマンド動画にて言及したり、Google Classroomにて記載して対応する。</p> <p>演習は、パソコンの操作を中心に進める。文書作成はMS-Word、表計算はMS-Excel、プレゼンテーションはMS-PowerPointによる制作作業を行う。同様にGoogle Document、Spreadsheet、Slideの使い方の演習も行う。</p> <p>毎週の授業内容に加え、セキュリティに関する講義（オープンエデュケーション利用）も行われる。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>D：授業内での質問と回答、小テストで評価する。</p> <p>E：Google Document、Spreadsheet、Slide、Word、Excel、PowerPointによる制作課題を評価する。</p> <p>小テスト10%、課題提出60%、最終課題30%</p>
テキスト	授業内で動画等教材を配布する
参考書	情報リテラシー 入門編 Windows 10 / Office 2019対応 (FOM出版)
履修上の注意	2週にわたって取り組む演習問題が複数存在する。1回でも欠席すると、その後ついていくのが大変なため、休んだ回の課題は教員に確認し、次回出席までに終わらせておくこと。各回の内容は学生の履修状況をみて一部変更することがある。
アクティブ・ラーニング	パソコンソフトを活用したアウトプット

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：小倉秀雄）			
ナンバリング：G15C23	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>（授業概要） PCを用いた文書作成スキルはあらゆる職業で必要されるといっても過言ではないだろう。また学生生活においてレポート課題など文書作成を求められる場面も非常に多い。本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office Word 365&2019」の出題範囲にそって文書作成のためのアプリケーションであるWordの機能を学習する。また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。</p> <p>（授業目標） ◎E：文書の作成と管理について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入し管理する方法について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。 ◎E：文書の作成・管理に関する共同作業について、MOS Word 合格相当のPCの操作ができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業目標および授業内容の説明 成績評価方法の説明 MOSの概要説明 演習環境に関する説明</p> <p>2 データの準備 文字・段落・セクションの挿入と書式設定 1（実習：PCによる演習） データの準備 Word スキルチェックシート 文字列や段落を挿入する 文字列や段落の書式を設定する 1</p> <p>3 文字・段落・セクションの挿入と書式設定 2（実習：PCによる演習） 文字列や段落の書式を設定する 2 文書にセクションを作成する、設定する</p> <p>4 表やリストの管理 1（実習：PCによる演習） 表を作成する 表を変更する</p> <p>5 表やリストの管理 2（実習：PCによる演習） リストを作成する、変更する 表やリストの管理</p> <p>6 参考資料の作成と管理 1（実習：PCによる演習） 参照のための要素を作成する、管理する 1</p> <p>7 参考資料の作成と管理 2 グラフィック要素の挿入と書式設定 1（実習：PCによる演習） 参照のための要素を作成する、管理する 2 参照のための一覧を作成する、管理する 図やテキストボックスを挿入する 1</p> <p>8 グラフィック要素の挿入と書式設定 2（実習：PCによる演習） 参照のための要素を作成する、管理する 2 図やテキストボックスを挿入する 2 図やテキストボックスを書式設定する 1</p> <p>9 グラフィック要素の挿入と書式設定 3（実習：PCによる演習） 図やテキストボックスを書式設定する 2 グラフィック要素にテキストを追加する グラフィック要素を変更する</p> <p>10 文書の共同作業の管理：（実習：PCによる演習） コメントを追加する、管理する 変更履歴を管理する 文書の共同作業の管理：確認問題</p> <p>11 文書の管理 1（実習：PCによる演習） 文書内を移動する 文書の書式を設定する</p> <p>12 文書の管理 2（実習：PCによる演習） 文書を保存する、共有する 文書を検査する</p> <p>13 第1回試験対策講座（実習：PCによる演習） MOS 365&2019の試験形式、画面構成と試験環境の説明 MOS 365&2019攻略ポイントおよび模擬試験プログラムの使い方 第1回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p> <p>14 第2回試験対策講座（実習：PCによる演習） 第2回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う</p>

	15 第3回試験対策講座（実習：PCによる演習） 第3回模擬試験を実施し、試験結果の課題に対し個別に対策を行う
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本的な文書の作成および管理ができる。 ◎E：文書内に書式やページレイアウトを設定し、表、グラフィックや参考資料を挿入するための基本的な操作ができる。 ◎E：文書の作成・管理に関し、共同作業ができる。
事前・事後学習	事前学習：MOSランダム模擬試験は、出題範囲が事前に明確になっているため、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。(200分) 事後学習：各講義内容で十分に理解できなかった操作については、事後学習で各自補完すること。また、各出題範囲の終了後に、出題される課題を解答することで、操作方法を確実に習得すること。(120分)
指導方法	パソコンを操作する実習（講師が、まず、テキストに沿って操作内容を解説・実演し、受講者は関連する演習問題を各自のPCで演習を行う形式）が中心である。 各出題範囲の終了後に、知識の習得を確実にする目的で、課題を出題し、解答の提出をしてもらう。 また授業終盤ではMOSの模擬試験による実践演習を行い、試験結果の課題に対し、個別で取り組み、質疑応答を行う。 フィードバックの仕方：授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成および管理に関する操作の評価を行う。 E：PCを利用したMOSの模擬試験で書式、ページレイアウトの設定、表、グラフィック、参考資料の挿入に関する操作の評価を行う。 E：PCを利用したMOSの模擬試験で文書の作成・管理に関し共同作業に関する操作の評価を行う。 また、各課題への提出およびその採点結果を総合して成績評価を行う。 尚、採点の割合は、課題提出：30%、課題点：70% とする。 MOS Word 365&2019 の合格認定により、成績評価を1ランクアップする。 (本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる)
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Word 365&2019 対策テキスト&問題集 FOM出版
参考書	
履修上の注意	受講者は授業に使用する、次の条件を満たすPCを用意する必要がある。 1. PCのOSはWindows 10 日本語版 (Windows 10 Sモードでは動作しない) 2. 演習で使用する Microsoft Office Word と同一バージョンのアプリ (Microsoft Word 365または2019) が各自のPC上にインストールされている必要がある。 また、授業に際し、テキストは必携である。 「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提となる。 他のMOS資格 (Excel、PowerPoint) の受験も視野に、計画的な学習をすること。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
布施梓、中村公子（契約講師：小倉秀雄）			
ナンバリング：G15C24			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 表計算ソフトを使用する職業は非常に多く、その操作スキルは社会で求められるものである。本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office Excel 365&2019」の出題範囲にそってExcelの機能を学習する。 また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：ワークシートの操作、数式や関数の操作、グラフや図の挿入・編集、データ分析について、MOS Excel合格相当のPCの操作ができる。
授業計画	1 ガイダンス／ワークシートやブックの管理（1） ・MOS Excel 365&2019の出題範囲の説明 1-1-1 ブック内のデータを検索する 1-1-2 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する 1-1-3 ハイパーリンクを挿入する、削除する 1-1-4 既存のブックにワークシートを追加する 1-1-5 ワークシートをコピーする、移動する 2 ワークシートやブックの管理（2） 1-2-1 ページ設定を変更する 1-2-2 ヘッダーやフッターをカスタマイズする 1-2-3 行の高さやの幅を調整する 1-3-1 ブックの表示を変更する 1-3-2 ワークシートの行や列を固定する 1-3-3 ウィンドウの表示を変更する 3 ワークシートやブックの管理（3） 1-3-4 ブックの基本的なプロパティを変更する 1-3-5 数式を表示する 1-3-6 クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 1-4-1 印刷設定を行う 1-4-2 印刷範囲を設定する 1-4-3 別のファイル形式でブックを保存する 4 ワークシートやブックの管理（4） 1-4-4 ブック内の問題を検査する 1-4-5 ブック内のアクセシビリティの問題を検査する 1-5-1 テキストファイルからデータをインポートする 1-5-2 .csvファイルからのデータをインポートする 5 セルやセル範囲のデータの管理（1） 2-1-1 オートフィル機能を使ってセルにデータを入力する 2-1-2 形式を選択してデータを張り付ける 2-2-3 セルを結合する、セルの結合を解除する 2-2-4 数値の書式を適用する 6 セルやセル範囲のデータの管理（2） 2-2-5 <<セル書式設定>>ダイアログボックスからセルの書式を適用する 2-2-6 書式のコピー／貼り付け機能を使用してセルに書式を設定する 2-2-7 セルのスタイルを適用する 2-2-8 セルの書式設定をクリアする 7 セルやセル範囲のデータの管理（3） 2-3-1 名前付き範囲を定義する 2-3-2 テーブルに名前を付ける 2-4-1 スパークラインを挿入する 2-4-2 組み込み条件付き書式を適用する 2-4-3 条件付き書式を削除する 8 テーブルとテーブルのデータの管理（1） 3-1-1 セル範囲からExcelのテーブルを作成する 3-1-2 テーブルにスタイルを適用する 3-1-3 テーブルをセル範囲に変換する 3-2-1 テーブルに行や列を追加する、削除する 3-2-2 テーブルスタイルのオプションを設定する 3-2-3 集計行を挿入する、設定する 3-3-1 複数の列でデータを並べ替える 3-3-2 レコードをフィルターする 9 数式や関数を使用した演算の実行（1） 4-1-1 セルの相対参照、絶対参照、複合参照を追加する 4-1-2 数式の中で名前付きや範囲やテーブル名を参照する

	<p>4-2-1 SUM、AVERAGE、MAX、MIN関数を使用して計算を行う</p> <p>4-2-2 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK関数を使用してセルの数を数える</p> <p>数式や関数を使用した演算の実行（2）</p> <p>4-3-1 RIGHT、LEFT、MID関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>4-3-2 UPPER、LOWER、LEN関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>4-3-3 CONCAT、TEXTJOIN関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>11 グラフの管理（1）</p> <p>5-1-1 グラフを作成する</p> <p>5-1-2 グラフシートを作成する</p> <p>5-2-1 ソースデータの行と列を切り替える</p> <p>5-2-2 グラフにデータ範囲（系列）を追加する</p> <p>5-2-3 グラフの要素を追加する、変更する</p> <p>12 グラフの管理（2）</p> <p>5-3-1 グラフのレイアウトを適用する</p> <p>5-3-2 グラフのスタイルを適用する</p> <p>5-3-3 アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する</p> <p>13 試験対策講座（1）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬試験プログラムの使い方 ・ MOSの試験形式や攻略ポイントの説明 <p>14 試験対策講座（2）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回模擬試験の実施とポイント解説 <p>15 試験対策講座（3）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回模擬試験の実施とポイント解説
学習成果・到達目標・基準	◎E：Excelを使用して、基本的なワークシートの操作、数式や関数の操作、グラフや図の挿入ができる。
事前・事後学習	事前学習：試験対策講座で複数回にわたって最終課題を行う。最終課題の内容はMOSの模擬試験問題に準ずるものとなっている。出題範囲は事前に明確になっているため、試験対策講座の授業回を待たず、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。なお授業計画内の1-2-2などの表記はテキストの章番号である。事前学習の参考にすること。（30分） 事後学習：授業内で正答できなかった問題は事後学習で各自補完する。（30分）
指導方法	パソコンを操作する実習が中心である。前半は講師と共に行う操作練習、後半は個別演習形式で進める。また授業終盤ではデジタル教材によるMOSの模擬試験を用いた実践演習を行う。 フィードバックの方法：模擬試験は実施の都度授業内で採点し、アドバイスをを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：最終課題で評価を行う。またMOS合格者は評価を原則1段階アップさせる。 （MOS合格者は本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる） 受講態度30%、課題及び最終課題70%の割合で成績評価を行う。
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Excel 365&2019 対策テキスト& 問題集（FOM出版）
参考書	
履修上の注意	「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提となる。 自身のPC持参が必要であり、さらに「Office 2019 日本語版」または「Microsoft 365 日本語版」がインストールされている必要がある。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
ナンバリング：G16C25			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 運動を通して、日常生活に必要な基礎体力をつける習慣を身につけるために、ストレッチとエクササイズを継続して実施し、自身の体調の変化に気がつくようにする。 他者と協働することの意義や楽しさを体得できるよう、球技種目（バドミントン、ソフトバレーボール、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を取得し、ゲームを行う。 (授業目標) ◎A：ゲーム実施の際、自身の役割を理解し、チームに貢献することで責任感を養うことができる。 ◎E：球技種目（バドミントン、ソフトバレーボール、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を修得することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（グループワーク：自己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、自己紹介</p> <p>2 球技①基礎（実習：ドッジボール） ストレッチ、ドッジボール（基礎練習）</p> <p>3 ニュースポーツ①基礎（実習：ドッジビー） ストレッチ、バドミントン（基礎練習）</p> <p>4 球技②基礎（実習：バドミントン1） ストレッチ、バドミントン（基礎練習）</p> <p>5 球技②応用（実習：バドミントン2） ストレッチ、バドミントン（ゲーム）</p> <p>6 球技③基礎（実習：ソフトバレー1） ストレッチ、ソフトバレーボール（基礎練習）</p> <p>7 球技③応用（実習：ソフトバレー2） ストレッチ、ソフトバレーボール（ゲーム）</p> <p>8 ニュースポーツ②（実習：インディアカ1） ストレッチ、インディアカ（基礎練習）</p> <p>9 ニュースポーツ②応用（実習：インディアカ2） ストレッチ、インディアカ（ゲーム）</p> <p>10 ニュースポーツ③基礎（実習：ユニホック） ストレッチ、ユニホック（基礎練習、ゲーム）</p> <p>11 球技④基礎（実習：ポートボール） ストレッチ、ポートボール（基礎練習、ゲーム）</p> <p>12 球技⑤基礎（実習：卓球1） ストレッチ、卓球（基礎）</p> <p>13 球技⑤応用（実習：卓球2） ストレッチ、卓球（ゲーム）</p> <p>14 ニュースポーツ④基礎（実習：ポッチャ） ストレッチ、ポッチャ（基礎練習、ゲーム）</p> <p>15 ニュースポーツ⑤基礎（実習：キンボール） ストレッチ、キンボール（基礎練習、ゲーム）</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：チーム内においての自身の役割を見つけ参加することができる。 ◎E：ルールにのっとり、楽しくスポーツすることができる。
事前・事後学習	事前学習：次週の授業までに日常生活の中でスポーツに関するニュースや書籍に目を通すようにする。（30分程度） 事後学習：スポーツする楽しさと意義を感じ、日常生活の中にスポーツすることを取り込んでいくようにする。（30分程度）
指導方法	実技演習 ①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむためには何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードやGoogleフォームでの感想を総合的に評価し、授業時に返却する。 質問があった場合には、個別に対応する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	A：ゲーム中においてチームにおける貢献度と受講態度、また技能カードやGoogleフォームでの提出物に対する取り組みを評価する。 E：各種目における技能を評価する。 チームへの貢献度30%、受講態度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「スタビライゼーション」小林敬和編著 ベースボールマガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等は外すこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1	1	総合：選択
担当教員			
飯名寛子、鈴木薫子			
ナンバリング：G16C26			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 準備運動としてストレッチを実施する中で、心身をほぐす。リズムダンスの基礎的なステップを修得後、リズムに合わせて踊れるよう練習を実施する。修得した曲目の中から自身の課題曲を決定し、グループでフォーメーションの創作を実施し、人前で発表できるようにする。 (授業目標) ◎A：修得した曲の中からグループ創作を実施し、チームをまとめる力を身につけることができる。 ◎E：準備運動としてストレッチを行い、リズムダンスの基礎的なステップを修得することで個人の身体表現を磨き、リズムに乗って楽しく踊ることができる。
授業計画	1 ガイダンス（グループワーク：自己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、自己紹介紹介 2 ストレッチ、ウォームアップ ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(ウォームアップ) 3 リズムダンス①（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ1) 4 リズムダンス②（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ2) 5 リズムダンス③（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・仕上げ) 6 リズムダンス④（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ1) 7 リズムダンス⑤（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ2) 8 リズムダンス⑥（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・仕上げ) 9 リズムダンス⑦（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ1) 10 リズムダンス⑧（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・フレーズ2) 11 リズムダンス⑨（実習：リズムダンス） ストレッチ、基礎練習、リズムダンス(各種ステップ・仕上げ) 12 グループ創作1（グループワーク） ストレッチ、グループ創作（構成作り）（ICT：iPad） 13 グループ創作2（グループワーク） ストレッチ、グループ創作（振り作り）（ICT：iPad） 14 グループ創作3（グループワーク） ストレッチ、グループ創作（踊り込み）（ICT：iPad） 15 創作ダンス発表 グループ創作した作品発表（ICT：iPad）
学習成果・到達目標・基準	◎A：自身にあった課題曲を自分で選択し、創作活動に参加することができる。 ◎E：軽いエクササイズやストレッチ、リズムダンスに苦手意識を持たずに楽しみ参加することができる。
事前・事後学習	事前学習：自分自身の身体の変化に気がつけるようにチェックを行う。（30分程度） 事後学習：毎回導入として行うストレッチやマッサージの方法を覚え、日常生活でも実践していくようにする。（30分程度）
指導方法	戸板ホールで実習・Googleフォーム提出 ①準備運動としてストレッチを行い、その日の体調を確認する。 ②ウォームアップを音楽に合わせて行い、リズムに合わせて動いたのしさを修得し、健康でしなやかな日常生活を送れるようにする。 ③リズムダンスを修得した後、グループ創作を行う。個人の身体表現を磨き、他者との身体コミュニケーションを行う意義について理解を深めさせる。 フィードバックの方法：iPadで動きや作品を撮影し、その動画を用いて改善していく。質問があった場合には、個別に対応する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループ活動時の貢献度と受講態度、またGoogleフォームなど提出物に対する取り組みを評価する。 E：個人技能を評価する。 グループへの貢献度30%、受講態度20%、提出物20%、個人技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「プロフェッショナルピラーティス」アラン・ハードマン著 池田美紀訳 ガイアブックス 「ダンス解剖学」ジャッキー・グリーン・ハース著 武田淳也監訳 ベースボール・マガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断(心電図も含む)において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリー等は外すこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク：実習、創作

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
ナンバリング：G16C27			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 様々なスポーツ種目の基礎技術を修得しゲームを実施する。ゲームを通して、自身にあった生涯スポーツを発見し楽しみながら健康・体力の維持・増進を図ることを目標とする。 実習期間：5日間(土曜日) 実習場所：八王子キャンパス (授業目標) ◎A：自身にあった運動をみつけ、参加することができる。 ○E：修得した基礎技術を使用してゲームに参加できる。
授業計画	<p>1 体づくり(実習：体ほぐし) ストレッチ、体ほぐし、ドッジビー</p> <p>2 ニュースポーツ①基礎(実習：グラウンドゴルフ) グラウンドゴルフ(基礎練習)</p> <p>3 ニュースポーツ①応用(実習：グラウンドゴルフ) グラウンドゴルフ(ゲーム)</p> <p>4 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>5 球技①基礎(実習：ポートボール) ポートボール(基礎練習)</p> <p>6 球技②応用(実習：ポートボール) ポートボール(ゲーム)</p> <p>7 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>8 ニュースポーツ②基礎(実習：インディアカ) インディアカ(基礎練習)</p> <p>9 ニュースポーツ②応用(実習：インディアカ) インディアカ(ゲーム)</p> <p>10 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>11 ラケット種目①基礎(実習：卓球) 卓球(基礎練習)</p> <p>12 ラケット種目①応用(実習：卓球) 卓球(ゲーム)</p> <p>13 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>14 ニュースポーツ③基礎(実習：キンボール) キンボール(基礎練習)</p> <p>15 ニュースポーツ④応用(実習：キンボール) キンボール(ゲーム)</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：健康・体力の維持・増進を図る姿勢を身につけることができる。 ○E：種々のスポーツ種目の基礎技術を修得できる。
事前・事後学習	事前学習：今後の自身の生活に活かせるように「生涯スポーツ」について調べておく。(30分程度) 事後学習：日常生活の中にもスポーツを取り込んでいくようにする。(60分程度)
指導方法	①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむために何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードやGoogleフォームを総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：積極的にスポーツを実施しているか、チームへの貢献度、またスコア表やGoogleフォームなど提出物への取り組む姿勢を評価する。 E：各種目における技能を評価する。

	受講態度30%、チームにおける貢献度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「スポーツの歴史と文化ースポーツ史を学ぶ」新井博、榊原浩晃著 道和書院 「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②運動靴・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等ははずすこと。 ③事前に指定されたオリエンテーションに必ず参加すること。 ④実習期間：5日間（土曜日）実習場所：八王子キャンパス
アクティブ・ラーニング	実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
ナンバリング：G16C28			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 様々なスポーツ種目の基礎技術を修得しゲームを実施する。ゲームを通して、自身にあった生涯スポーツを発見し楽しみながら健康・体力の維持・増進を図ることを目標とする。 実習期間：5日間(土曜日) 実習場所：八王子キャンパス (授業目標) ◎A：自身にあった運動をみつけることができる。 ○E：修得した基礎技術を使用してゲームに参加できる。
授業計画	<p>1 体づくり(実習：体ほぐし) ストレッチ、体ほぐし、ドッジビー</p> <p>2 ニュースポーツ①基礎(実習：グラウンドゴルフ) グラウンドゴルフ(基礎練習)</p> <p>3 ニュースポーツ①応用(実習：グラウンドゴルフ) グラウンドゴルフ(ゲーム)</p> <p>4 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>5 ニュースポーツ②基礎(実習：キンボール) キンボール(基礎練習)</p> <p>6 ニュースポーツ②応用(実習：キンボール) キンボール(ゲーム)</p> <p>7 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>8 ラケット種目①基礎(実習：卓球) 卓球(基礎練習)</p> <p>9 ラケット種目①応用(実習：卓球) 卓球(ゲーム)</p> <p>10 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>11 球技①基礎(実習：ポートボール) ポートボール(基礎練習)</p> <p>12 球技①応用(実習：ポートボール) ポートボール(ゲーム)</p> <p>13 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、ドッジビー</p> <p>14 ニュースポーツ③基礎(実習：インディアカ) インディアカ(基礎練習)</p> <p>15 ニュースポーツ③応用(実習：インディアカ) インディアカ(ゲーム)</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：健康・体力の維持・増進を図る姿勢を身につけることができる。 ○E：様々なスポーツ種目の基礎技術を修得できる。
事前・事後学習	事前学習：今後の自身の生活に活かせるように「生涯スポーツ」について調べておく。(30分程度) 事後学習：日常生活の中にもスポーツを取り込んでいくようにする。(60分程度)
指導方法	①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむために何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードや感想用紙を総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：積極的にスポーツを実施しているか受講態度、チームにおける貢献度、スコア表やGoogleフォームなど提出物への取り組む姿勢を評価する。 E：各種目における技能を評価する。

	受講態度30%、チームにおける貢献度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「スポーツの歴史と文化―スポーツ史を学ぶ」新井博、榊原浩晃著 道和書院 「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②運動靴・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等ははずすこと。 ③事前に指定されたオリエンテーションに必ず参加すること。 ④実習期間：5日間（土曜日）実習場所：八王子キャンパス
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中村公子（契約講師：David PIPE）、玉川明日美			
ナンバリング：G17A29			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要） 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Listening/Speakingをネイティブ講師から、Reading/Writingを日本人講師から学ぶ。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズをロールプレイなどさまざまなアクティビティを通して身につける。双方の内容すべてを通して、英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。 （授業目標） ○B：英語によるコミュニケーション能力を高める ◎E：多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能のスキルアップを図る。 D：グローバルな視点を身につける （Reading and Writing Class） E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語特有の発想や表現パターンを身につける （Listening and Speaking Class） B・D：Communicate in a variety of everyday situations and discuss a range of topics （日常のさまざまな場面における幅広いトピックに英語で応対できる力を身につける）
授業計画	1 Course Orientation, Basic English Review Reading and Writing(RW): Course orientation / Unit 1 Why Do We Wear Clothes? Listening and Speaking(LS): Course introduction and orientation / Classroom language / Ice-breaker activities 2, 3 RW: Unit 1 Why Do We Wear Clothes? RW: Clothes for important days / Clothes for every day / Looking good Google Classroom: 小テスト・課題 2, 3 LS: General English & ESP General English: Discuss Skills and Abilities ESP: Garments; Colours 4, 5 RW: Unit 2 The History of Clothes RW: Making clothes / Making fabrics Google Classroom: 小テスト・課題 4, 5 LS: General English & ESP General English: Introducing and Asking about Family Members ESP: Fabric Types 6, 7 RW: Unit 2 The History of Clothes, Fabrics, Unit 5 Fabrics Silk / Cotton / Wool / Synthetic Fabrics Google Classroom: 小テスト・課題 6, 7 LS: General English & ESP General English: Describing personalities ESP: Fabric Patterns 8, 9 RW: Unit 5 Unit 3 The Language of Clothes Traditional costume Google Classroom: 小テスト・課題 8, 9 LS: General English & ESP General English: Describing appearance ESP: Garment Creation 10, 11 RW: Unit 3 The Language of Clothes, Unit 6 The Clothing Industry Designers, Buyers, Factory workers, Sales clerks Google Classroom: 小テスト・課題 10, 11 LS: General English & ESP General English: Talking about the Past ESP: Product Promotion and Marketing 12, 13 RW: Unit 6 The Clothing Industry The supply chain Google Classroom: 小テスト・課題 12, 13 LS: Role-Play Preparation & ESP Role-Play Preparation ESP: Fashion Displays 14, 15 RW: Unit 8 Crazy Clothes Fashions shows, Fashion victims, Street fashion Google Classroom: 小テスト・課題 14, 15 LS: Role-Play Presentations

Role-Play Presentations & Course Wrap-up	
学習成果・到達目標・基準	<p>○B：場面に適したコミュニケーションを適切な英語を用いて行うことができる。 ◎E：英文の内容を正しく理解できる。英語らしい表現で自らの考えを表すことができる。 D：自らの専攻分野で必要となる英語を身につけ、文化的な背景に即して正しく使うことができる。</p> <p>(RW) E：スキミングやスキヤニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D：語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。</p> <p>(LS) B：Use a variety of grammar structures in spoken English D：Understand and use vocabulary related to their particular area of study</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 (RW) 小テストに備え前週の既習内容についての振り返りを行う。発表等の準備を進める。(約30分) (LS) Both homework and preview work are compulsory. Towards the end of the semester, students are expected to continue work on their presentations out of class. They will be expected to prepare for their presentations (e.g. writing and editing their scripts, practice performing their scripts etc.). (約30分) (事前・事後両方の学修が必須。プレゼンテーションに必要なすべての項目の準備を進めて学期末の発表に備える。)</p> <p>事後学習 (RW) 授業時に課されたワークや課題に取り組む。(約30分) (LS) Homework will be a review of target language studied in class. (約30分) (既習語彙の復習を行う。)</p>
指導方法	<p>2週目よりRWとLSを1週交代に行う。</p> <p>(RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティ・関連動画などを取り入れ楽しみながら英文を読むことができるよう指導する。また、毎時の課題としてリサーチまたは英作文を課し、英語での表現力を養う。 フィードバックの方法：課題及び小テストの実施と、授業内での解説とコメントまたは添削物の返却</p> <p>(LS) The course consists of an introduction class, six ESP lessons, three role-play presentation classes, and five general English lessons. The semester begins with a focus on general English skills, and ends with role-play presentations. The rest of the course alternates between general English and ESP material appropriate to the students' major. Vocabulary quizzes will be administered to assess language retention and encourage language review. (一般英会話・学科の学びに繋がる専門英語・ロールプレイプレゼンテーションで授業を構成する。適宜単語テストを行う。)</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>(RW) E：各ユニットの課題や作文、発表等で評価する。 D：小テストや定期試験、課題等で評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 定期試験 50%</p> <p>(LS) B・D：Speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test in week sixteen (outside of the fifteen-week semester). (スピーキング力はロールプレイの発表から、リスニング力は定期試験テストから評価する) Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20%</p> <p>*最終的な評価は、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものから算出する。</p>
テキスト	<p>(RW) Clothes Then and Now Richard Northcott (2018) Oxford University Press (LS) なし。適宜プリント等を配布する。</p>
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	<p>グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。 小テストはPCまたはスマートフォンで行うため、シラバスに記載のある回には必ず持参すること。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>プレゼンテーション ディスカッション グループワーク ロールプレイプレゼンテーション (LS 13-15週)</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中村公子（契約講師：Kevin OYAMA）、玉川明日美			
ナンバリング：G17A30			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要） 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Listening/Speakingをネイティブ講師から、Reading/Writingを日本人講師から学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズをロールプレイなどさまざまなアクティビティを通して身につける。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。双方の内容すべてを通して、英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。 （授業目標） ○B：英語によるコミュニケーション能力を高める ◎E：多角的なアプローチにより、バランスの取れた4技能のスキルアップを図る。 D：グローバルな視点を身につける （Reading and Writing Class） E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語特有の発想や表現パターンを身につける （Listening and Speaking Class） B・D：Communicate in a variety of everyday situations and discuss a range of topics （日常のさまざまな場面における幅広いトピックに英語で応対できる力を身につける）
授業計画	1 Course Orientation Reading and Writing(RW): Course orientation / Unit 1 Unit 1 Food for life: About Nutrition Listening and Speaking(LS): Course introduction and orientation / Classroom language / Ice-breaker activities 2,3 RW: Unit 1 Food for life Nutrients Google Classroom: 小テスト・課題 2,3 LS: General English & ESP General English: Discuss Personal Skills and Abilities ESP: Food; Food Groups 4,5 RW: Unit 1 Food for life / Digestion Nutrients, Digestive system and organs Google Classroom: 小テスト・課題 4,5 LS: General English & ESP General English: Introducing and Asking about Family Members ESP: Food Preparation 6,7 RW: Digestion Digestive system and diseases Google Classroom: 小テスト・課題 6,7 LS: General English & ESP General English: Describing personalities ESP: Weights and Measures 8,9 RW: Unit 3 Food origins Origins of chocolate and potato chips Google Classroom: 課題 8,9 LS: General English & ESP General English: Describing appearance ESP: Essential Macronutrients and their Sources 10,11 RW: Unit 4 Typical Dishes Traditional food around the world Google Classroom: 小テスト・課題 10,11 LS: General English & ESP General English: Talking about the Past ESP: Essential Micronutrients and their Sources 12,13 RW: Unit 4-7 & Group Presentation Research and presentation about typical food in the world Google Classroom: 課題 12,13 LS: Role-Play Preparation & ESP Role-Play Preparation ESP: Food Labels 14,15 RW: Unit 8 Giving thanks Food and events Google Classroom: 小テスト・課題

	14, 15 LS : Role-Play Presentations Role-Play Presentations & Course Wrap-up
学習成果・ 到達目標・基準	○B : 場面に適したコミュニケーションを適切な英語を用いて行うことができる。 ◎E : 英文の内容を正しく理解できる。英語らしい表現で自らの考えを表すことができる。 D : 自らの専攻分野で必要となる英語を身につけ、文化的な背景に即して正しく使うことができる。 (RW) E : スキミングやスキニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D : 語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。 (LS) B : Use a variety of grammar structures in spoken English D : Understand and use vocabulary related to their particular area of study
事前・事後学習	事前学習 (RW) 小テストに備え前週の既習事項に関する振り返りを行う。発表等の準備を進める。(約30分) (LS) Both homework and preview work are compulsory. Towards the end of the semester, students are expected to continue work on their presentations out of class. They will be expected to prepare for their presentations (e.g. writing and editing their scripts, practice performing their scripts etc.). (約30分) (事前・事後両方の学習が必須。プレゼンテーションに必要なすべての項目の準備を進めて学期末の発表に備える。) 事後学習 (RW) 授業時に課されたワークや課題に取り組む。(約30分) (LS) Homework will be a review of target language studied in class. (約30分) (既習語彙の復習を行う。)
指導方法	2週目よりRWとLSを1週交代に行う。 (RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティ・関連動画などを取り入れ楽しみながら英文を読むことができるよう指導する。また、毎時の課題としてリサーチまたは英作文を課し、英語での表現力を養う。 フィードバックの方法: 課題及び小テストの実施と、授業内での解説とコメントまたは添削物の返却 (LS) The course consists of an introduction class, six ESP lessons, three role-play presentation classes, and five general English lessons. The semester begins with a focus on general English skills, and ends with role-play presentations. The rest of the course alternates between general English and ESP material appropriate to the students' major. Vocabulary quizzes will be administered to assess language retention and encourage language review. (一般英会話・学科の学びに繋がる専門英語・ロールプレイプレゼンテーションで授業を構成する。適宜単語テストを行う。)
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	(RW) E : 各ユニットの課題や作文、発表等で評価する。 D : 小テストや定期試験、課題等で評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 定期試験 50% (LS) B・D : Speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test in week sixteen (outside of the fifteen-week semester). (スピーキング力はロールプレイの発表から、リスニング力は定期試験テストから評価する) Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20% *最終的な評価は、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものから算出する。
テキスト	(RW) Food Around the World Robert Quinn (2010) Oxford University Press (LS) なし。適宜プリント等を配布する。
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。 毎回辞書を用意すること。 小テストはPCまたはスマートフォンで行うため、シラバスに記載のある回には必ず持参すること。
アクティブ・ラー ニング	ディスカッション グループワーク ロールプレイプレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：David PIPE）			
ナンバリング：G27C31			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Reading/Writingを日本人講師から、Listening/Speakingをネイティブ講師から学ぶ。RWでは英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。LSではビジネスの現場において使用される英語彙や表現を学び、電話の応対や仕事内容の説明などの基本的なコミュニケーションを取れるように、ロールプレイ等を通して特にスピーキング・リスニングを学修する。 (授業目標) (Reading and Writing) ◎E：各種リーディングスキルとライティング技法を身につける。 ◎D：学科の学びにつながる基礎知識をグローバルな視点から学修する。 (Listening and Speaking) ◎E：英語を使って商品の説明やサービスの提案など、ビジネスシーンに合わせた英語での発信ができる。 ◎E：自分の職場や仕事について英語で適切に説明できる。 ◎D：ビジネスシーンにおいて使用される英語表現を理解し、状況に合った適切なやり取りができる。
授業計画	1 Listening and Speaking Class(LS): Orientation, Unit 1: Checking In / Reading and Writing Class(RW): Orientation, Chapter 5: What do you think? RW: 科目オリエンテーション、好きな色と性格 LS: 科目オリエンテーション、電話やビジネスシーンでの自己紹介 (アクティブラーニング：グループワーク) 2, 3 RW: Chapter 1: What Is Color? 光の波長と色 (アクティブラーニング：グループワーク) (ICT：スマホ/PC 小テスト) 2, 3 LS: Unit 1: Checking In, Unit 3: Schedules, Vocabulary Quiz 電話やビジネスシーンでの自己紹介、打ち合わせの予約をする(確認する)、小テスト (アクティブラーニング：グループワーク) 4, 5 RW: Chapter 1: What Is Color? 色の見え方、色の影響力 (アクティブラーニング：グループワーク) (ICT：スマホ/PC 調べ学習) 4, 5 LS: Unit 3: Schedules, Unit 5: Meeting People 打ち合わせの予約をする(確認する)、様々なビジネスシーンでのスモールトーク (アクティブラーニング：グループワーク) 6, 7 RW: Chapter 2 The color of culture 文化による色に対する考え方の違い① (アクティブラーニング：グループワーク) (ICT：スマホ/PC 小テスト・調べ学習) 6, 7 LS: Unit 5: Meeting People, Vocabulary Quiz, Unit 6: In the Office 様々なビジネスシーンでのスモールトーク、小テスト、オフィスでの会話 (アクティブラーニング：グループワーク) 8, 9 RW: Chapter 2: The color of culture 文化による色に対する考え方の違い ② (アクティブラーニング：グループワーク) 8, 9 LS: Unit 6: In the Office, Unit 8: Appointments, Vocabulary Quiz オフィスでの会話、打ち合わせ等のミーティングを設定する、小テスト (アクティブラーニング：グループワーク) 10, 11 RW: Chapter 4: Celebration of color 色にまつわる世界の行事① (アクティブラーニング：グループワーク) (ICT：スマホ/PC 小テスト・発表用原稿作成・調べ学習) 10, 11 LS: Unit 8: Appointments, Unit 9: Directions and Shopping 打ち合わせ等のミーティングを設定する、行き方を聞くまたは説明する (アクティブラーニング：グループワーク) 12, 13 RW: Chapter 4: Celebration of color 色にまつわる世界の行事② (アクティブラーニング：グループワーク) (ICT：スマホ/PC 発表) 12, 13 LS: Role-Play Preparation, Unit 9: Directions and Shopping, Vocabulary Quiz 行き方を聞くまたは説明する、ロールプレイ発表の準備、小テスト (アクティブラーニング：グループワーク) (ICT：スマホ/PC 発表用原稿作成・調べ学習)

	<p>14, 15 RW: Chapter 3: The color of nature 自然の中に存在する色 (アクティブラーニング: グループワーク) (ICT: スマホ/PC 小テスト)</p> <p>14, 15 LS: Role-Play Presentations ロールプレイ発表の準備、発表 (アクティブラーニング: グループワーク、プレゼンテーション) (ICT: スマホ/PC 発表用原稿作成・調べ学習)</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>(RW) ◎E: スキミングやスキヤニング等のテクニックを用いて英文の内容を正しく理解できる。 ◎E: 文章構成の方法を身につけ、自らの考えを英文で表現できる。 ○D: 各学科の学びの基本となる色について英語で学ぶことにより、英語での言い回しとともにグローバルなものの見方を知る。 (LS) ◎E: 英語を使って商品の説明や簡単なサービスの提案など、基本的な英語での発信ができる。 ◎E: 自分の職場や仕事内容について英語で説明できる。 ○D: ビジネスシーンにおいて使用される表現を理解し、予約を取ったり電話を受けたりするやり取りができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 (RW) 小テストに備え前週の既習内容についての振り返りを行う。発表等の準備を進める。(約20分) (LS) Prepare for their presentations (writing and editing their scripts, practice reading their scripts out loud etc.). (30 minutes) プレゼンテーションの準備 (原稿のライティング、発表の練習など。30分)</p> <p>事後学習 (RW) 授業時に課されたワークや課題に取り組み、内容の定着を図る。(約30分) (LS) Homework is a review of target language studied in class. (30 minutes) 小テストに向けて授業内で扱った重要語句や文法事項を復習する。(30分)</p>
指導方法	<p>(RW) リーディングスキルの育成を目標に、各種ワークやアクティビティ、関連動画等を適宜取り入れ、楽しんで英文を読むことができるよう指導する。また、毎時の課題としてリサーチまたは英作文を課し、英語での表現力を養う。 フィードバックの方法: 課題及び小テストの実施と、授業内での解説、コメントまたは添削物の返却。</p> <p>(LS) Each lesson focuses on one unit from the textbook. At the end of the semester, the students' ability is assessed via a final exam during official exam week. For role-plays, students may choose one of the following topics: scheduling a meeting by phone, then changing the time and day of the meeting because the other person already has plans for then; or introducing themselves and a company of their choice (fictional or non-fictional) to someone they have met at a business fair, and using small talk. Feedback for assignments will be given in oral or written form in class. 会社の説明、タスクの手順の確認など、実践に役立つビジネスシーンでの表現を学び、練習を行う。学期末にはロールプレイの発表と定期試験を実施する。ロールプレイでは電話での打ち合わせの予約、会社や自分のポジションについての説明などのシチュエーションに沿って原稿を作成し、発表する。フィードバックの方法: ロールプレイ実施の際、発表および原稿に対し口頭・紙面にてフィードバックを行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>(RW) E: 各ユニットのワークや課題、定期テストで評価する。 D: 小テストや課題作文、発表等で評価する。 小テスト 10% 課題・提出物・貢献度 40% 定期試験 50%</p> <p>(LS) E: ロールプレイの発表および原稿で評価する。 D: 小テストや定期試験、宿題への取り組みで評価する。 Role-play presentations (ロールプレイ発表) 20% Final exam (定期試験) 40% Vocabulary quizzes (単語クイズ) 20% Homework (宿題) 10% Participation (授業内外での参加度) 10%</p> <p>*最終評価は、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたのから算出する。</p>
テキスト	<p>(RW) True Colors Diane Naughton (2014) Cambridge University Press (LS) Business Venture Beginner Student's Book, Third Edition Roger Barnard, Jeff Cady (2011) Oxford University Press</p>
参考書	適宜授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。小テストはPCまたはスマートフォンで行うため、シラバスに記載のある回には必ず持参すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
中村公子（契約講師：Kevin OYAMA）			
ナンバリング：G17C32			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要） 道案内やお土産の提案など、外国人観光客とのコミュニケーションにおいて求められる英語を学びます。会話表現や文法に加え、日本文化を説明するための語彙や表現も学び、ロールプレイ等を通して実際に練習します。 （授業目標） ◎E：外国人観光客とコミュニケーションを取り、もてなすことができる。 ◎E：外国人観光客の要望を正しく理解し、アクティビティの提案や的確な補助ができる。 ○D：基本的な日常英会話表現を理解し、使用できる。 ○D：日本の文化やエチケット、習慣を正しく理解し、英語で説明できる。
授業計画	1 Topic A: Streets and Buildings - giving directions to a location (アクティブラーニング：グループワーク) 目的地までの行き方やかかる時間について説明する 2 Topic B: Public Transportation - explaining transportation systems (アクティブラーニング：グループワーク) バス等の公共交通機関の使い方について説明する 3 Topic C: Around Town - responding to requests from travelers (アクティブラーニング：グループワーク) 英語が使えるか、写真撮影ができるか等、旅行客からの依頼に対応する 4 Topic D: Restaurants - explaining meals and taste (アクティブラーニング：グループワーク) 食べているものや味について尋ねられた時に対応する 5 Topic E: Problems - offering assistance to travelers / Assessed Role-Play 1 (アクティブラーニング：ロールプレイ) 落とし物を探すお手伝いや補助が必要な旅行客に対応する、ロールプレイ作成・練習・発表(1回目) 6 Topic A: Streets and Buildings - giving advice on tourist attractions (アクティブラーニング：グループワーク) 観光名所やレストランをお勧めする 7 Topic B: Public Transportation - helping travelers on the train (アクティブラーニング：グループワーク) 電車の停車駅や乗り換え等について説明する 8 Topic C: Around Town - assisting travelers in town (アクティブラーニング：グループワーク) 日本の特産品や日本固有の品物の使い方等について説明する 9 Topic D: Restaurants - giving advice on meals (アクティブラーニング：グループワーク) 食事の食べ方やおすすめの食べ物・料理について説明する 10 Topic E: Problems - offering help in emergencies (1) / Assessed Role-Play 2 (アクティブラーニング：ロールプレイ) 旅行客が怪我をした時など、助けが必要な際に対応する、ロールプレイ作成・練習・発表(2回目) 11 Topic A: Streets and Buildings - offering help for everyday necessities (アクティブラーニング：グループワーク) お土産屋や携帯電話、WiFi等、旅行に必要なツールやサービスの受け方を説明する 12 Topic B: Public Transportation - getting the correct tickets (アクティブラーニング：グループワーク) 空席照会の方法や席の種類等について説明する 13 Topic C: Around Town - explaining how to read Kanji and public notices (アクティブラーニング：グループワーク) 漢字の読み方や看板等の公共掲示について説明する 14 Topic D: Restaurants - explaining about restaurant rules (アクティブラーニング：グループワーク) 喫煙の可否や注文方法等について説明する 15 Topic E: Problems - offering help in emergencies (2) / Assessed Role-Play / course wrap-up (アクティブラーニング：ロールプレイ) 急な体調不良等、緊急事態の際の対応、ロールプレイ作成・練習・発表(3回目)、まとめ

学習成果・到達目標・基準	<p>◎E：外国人観光客と基本的なコミュニケーションを取り、もてなすことができる。</p> <p>◎E：外国人観光客の要望を理解し、適切な補助ができる。</p> <p>○D：基本的な日常英会話表現を理解し、使用できる。</p> <p>○D：日本の文化やエチケット、習慣を理解し、英語で説明できる。</p>
事前・事後学習	<p>(事前学習) 次課の教材を読みわからない語彙の意味を調べる (15分)、ロールプレイの準備 (15分) Read the materials for the next lesson and look up any unknown words (15 minutes). Prepare for the assessed roleplays. (15 minutes)</p> <p>(事後学習) 授業内で扱った重要語句や文法事項の復習 (30分) Review target language studied in class. (30 minutes)</p>
指導方法	<p>この科目は、5つのテーマ (道案内、公共交通機関、街中での会話、飲食店、トラブルシューティング) で1サイクルになっており、1学期の中で3サイクル実施します。2サイクル目以降は、前サイクルの復習を含めます。5回目、10回目、15回目授業内でロールプレイを実施します。授業内で扱ったトピックをもとにロールプレイを作成・発表し、原稿と発表のパフォーマンスを評価します。</p> <p>The course is divided into three cycles of five lessons. Each five-lesson cycle includes one lesson on the following five topics: Streets and Buildings (giving directions, recommendations, giving information, etc.), Public Transportation, Around Town, Restaurants and Problems. Each lesson of a new cycle incorporates review material from the previous cycle.</p> <p>[Role-plays] Students will be assessed every five lessons through role-plays. They may choose a topic from the 5 topics within that particular five-week segment, and are assessed both for both role-play script-writing and enactment.</p> <p>フィードバックの方法：ロールプレイ実施の際、発表および原稿に対し口頭・紙面にてフィードバックを行います。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>E：ロールプレイの発表および原稿で評価する。</p> <p>D：小テストや定期試験で評価する。</p> <p>Role-play presentations (ロールプレイ発表) 30%</p> <p>Role-play writing (ロールプレイ プレゼンテーション スクリプトの作成) 10%</p> <p>Final exam (定期試験) 40%</p> <p>Participation (授業内外での貢献度) 20%</p>
テキスト	授業時に適宜プリントを配布します。
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク (毎回) ロールプレイプレゼンテーション (5, 10, 15週)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
東祥子			
ナンバリング：G17C33	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 基礎フランス語の授業です。語学と同時に文化・国民性にも触れて、フランス語は勉強ではなく文化の一部であり、生きている・使うものという事を念頭において、楽しく学びます。常に<参加型>の授業です。講義ではなく、[話そう、聞き取ろう、答えよう]という形式で、簡単な会話の授業を行います。教室に入ったら、フランスの世界！を実感。旅行、日本における国際機関、ホテル業、観光業、飲食業（調理場）で実際役立つやり取りが出来るようなロールプレイを繰り返します。一年間で基礎フランス語をしっかりとマスターし、話す・聞く・読む・書くと言った4技能をしっかり学習・理解して「参加しよう、話そう、コミュニケーションをとりよう！」が指導目標です。楽しく基礎会話力をつけていきます。</p> <p>(授業目標) ○B：フランス語を使ってコミュニケーションをする意欲を深める。 D：フランスの文化や社会を知り、日本との違いを確認して、視野を広げることができる。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。</p>
授業計画	<p>1 Lecon 1 オリエンテーション 授業の概要 フランスってどんな国？ 挨拶 1</p> <p>2 Lecon 2 アルファベ・挨拶 アルファベット、読み方のルール 発音の仕方 挨拶 2</p> <p>3 Lecon 3 動詞 ETRE ・敬称・自己紹介・主語人称代名詞 ETRE動詞の活用 自己紹介「私は～です」国籍・職業 数字(1～10) 男性名詞・女性名詞</p> <p>4 Lecon 4 冠詞・名詞 色々な表現 冠詞+名詞 un/une/du/de la/des/le/la/les 「お願いいたします」等 数字(11～20)</p> <p>5 Lecon 5 否定文 否定文「～ではない」 リエゾンの仕組み 数字復習(21～30)</p> <p>6 Lecon 6 動詞 AVOIR AVOIR動詞の活用 AVOIRを使った色々な表現 数字(31～40)</p> <p>7 Lecon 7 動詞 疑問文 疑問文「～ですか？」 数字(41～50)</p> <p>8 Lecon 8 ER動詞① ER動詞の活用 動詞：好む・住む・食べる・働く・買う・勉強する・探す・歩く、等・ 数字復習(51～60)</p> <p>9 Lecon 9 ER動詞② ER動詞の活用 文章を作る練習 数字(61～70)</p> <p>10 Lecon 10 Revisions 復習回 全復習 数字(71～80) ロールプレイ</p> <p>11 Lecon 11 形容詞の性と数 男性形、女性形、複数形の作り方 数字復習(81～90)</p> <p>12 Lecon 12 Aller / Vouloir / Pouvoir 近未来・～したい・～できる・～が欲しい 数字(91～99)</p> <p>13 Lecon 13 IR動詞 動詞：選ぶ・終わる</p>

	<p>14 数字(100/1000) Lecon 14 命令文 「～なさい、～して下さい」命令文・お願い文 数字復習</p> <p>15 Lecon 15 Revisions 復習回 今まで学んだフランス語をつかってロールプレイ</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>学年末には実用フランス語検定5級を習得するレベルまで達する。5級受験用練習問題も扱う。</p> <p>○B：フランス語圏の人と臆せず基本的なコミュニケーションができる。</p> <p>D：フランスだけでなく外国に関心を持ち、日本を今までと違う角度から見るができる。</p> <p>◎E：基本的なフランス語の表現ができる。</p>
事前・事後学習	<p>毎日学習：前回学んだ講義内容を参考に、発音を意識してテキストを音読し、文章を覚える。（毎日15分程度）</p> <p>事後学習：今回学んだ文法を理解して練習問題を解く（30分程度）</p>
指導方法	<p>教科書の内容に沿って、文法を分かり易く説明して理解させる。文字の読み方をしっかり確認しながらフランス語を声に出して発音させる。実際にロールプレイで全員が参加してコミュニケーションを取りながら会話の練習をする。目や頭ではなく、口と耳をフル回転して楽しくフランス語身に付けていく。</p> <p>フィードバックの方法：練習問題を皆で確認する。フランス語での質疑応答で理解度を確認する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：間違いを恐れずに相手に伝えるという意欲を評価する。</p> <p>D：授業での課題・筆記試験を評価する。</p> <p>E：授業での口頭の受け答えを評価する。</p> <p>授業での課題20%、定期試験60%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>「Ken et Julie」（駿河台出版社） 講師参考資料よりプリントの配布</p>
参考書	<p>講師参考資料 Bescherelle la conjugaison C'est la vie 早美出版社 Mon premier vol Tokyo-Paris 駿河台出版社 Une aventure 早美出版社 パターンで話せるフランス語 ナツメ社</p>
履修上の注意	<p>フランス語の授業を受けに来るのではなく、フランス語を話にくる事を意識しましょう。</p> <p>また毎日の音読で、必ず近い将来、旅行先で、社会人になって仕事場で、街中で、習得したフランス語を活かせるように、自分なりの目標・目的を持って授業に臨みましょう。1回でも欠席するとそれをきっかけに分からなくなるので欠席は極力しないようにしましょう。</p> <p>フランス語は日本において日常触れている身近な言葉です。</p> <p>英語が外国語として主流の日本で、実はフランス語も毎日触れている言葉です。</p> <p>多様性が求められ、様々な文化・文明への探求が益々求められる日本社会において、フランス語は教養語ではなく、日常語であり、よく耳にする、見る言葉です。意外にもフランス語は私達の日々の生活に溢れています。レストラン、ファッションアイコン、オリンピック・パラリンピックの公用語、多数のアフリカ諸国の公用語、国際機関においてもフランス語は必須です。この機会に1年間でしっかりと基礎フランス語を身に付けましょう。</p> <p>また学年末には実用フランス語検定5級にもトライしましょう。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>ロールプレイ</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
史悦			
ナンバリング：G17C35			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) この授業は初めて中国語を勉強する方を対象とし、中国語の発音・声調から、挨拶、別れ、お礼、お詫びなど基本的な会話表現を身に付ける。 (授業目標) ◎B：中国語の基礎文型と日常会話を学ぶ。 ○D：中国語の正しい発音、基礎的な語彙や文法を身につける。 E：「聞く・話す・読む・書く」の総合的な应用能力を養成し、「HSK 中国漢語水平考試」(中国国家教育部認可の中国語国家試験)の「1級」レベル到達を目標とする。
授業計画	<p>1 ガイダンス 自己紹介、授業内容、授業の進め方、学ぶ方法に関する説明。 挨拶：こんにちは ピンイン：声調と母音(単母音)</p> <p>2 発音、挨拶 ピンイン：複合母音(二重母音・三重母音) 挨拶：ありがとう 発音実習：ピンイン発音練習</p> <p>3 発音、文法 ピンイン：子音、巻舌音その他の子音 文法：1. 疑問代詞“何に？” 2. “是”構文 3. “吗”を使った疑問文 本文実習：自己紹介</p> <p>4 発音、文法 ピンイン：前鼻音n、後鼻音ngの区別、zhi, ch, sh, rの区別 文法：1. 疑問代詞“谁”と“哪” 2. 構造助詞“的” 3. 疑問助詞“呢” (1) 本文実習：家族メンバーを紹介する</p> <p>5 発音練習、文法 発音練習：r化の発音、有気音と無気音の区別 文法：1. 100までの数字 2. 変化を表す“了” 3. 疑問代詞“几” 本文実習：家族の状況を紹介する</p> <p>6 発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ① 文法：1. 能願動詞“会”① 2. 形容詞述語文 3. 疑問代詞“どうですか？”① 本文実習：私は中国語が話せませす</p> <p>7 発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ② 文法：1. 日にちの表し(1)：月、日、曜日 2. 名詞述語文 3. 連動文(1) 本文実習：誕生日を尋ねる</p> <p>8 発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ③ 文法：1. 能願動詞“想” 2. 金額の表し方 3. 疑問代詞“多少” 本文実習：一週間計画</p> <p>9 発音練習、文法 発音練習：2音節の声調の組み合わせ④ 文法：1. 動詞“在” 2. 疑問代詞“哪儿” 3. 疑問助詞“呢” 本文実習：友達の仕事について紹介する</p> <p>10 “有”を使った文 発音：軽声の読み方 文法：1. “有”を使った文 2. 能願動詞“能” 3. “”を使った命令文 本文実習：座席の位置を紹介する</p> <p>11 時間の表し方 発音：軽声の機能 文法：1. 時間の表し方 2. 時間詞と状語 3. 名詞“前” 本文実習：1日の生活習慣を尋ねる</p> <p>12 主述述語文 発音：3音節の声調の組み合わせ① 文法：1. 疑問代詞“怎么样” 2. 主述述語文 3. 能願動詞“会”(2) 本文実習：天気状況を尋ねる</p> <p>13 “在……？”進行形 発音：3音節の声調の組み合わせ② 文法：1. “在……呢”進行形 2. 電話番号の表し方 3. 語気助詞“吧” 本文実習：友たちの電話番号を尋ねる</p>

	<p>14 発生また完成を表す“了” 発音：3音節の声調の組み合わせ③ 文法：1. 発生または完成を表す“了” 2. 名詞“后” 3. 副詞“都” 本文実習：1日の活動について尋ねる</p> <p>15 “是……的”構文：強調する 発音：3音節の声調の組み合わせ④ 文法：1. “是……的”構文：強調する 2. 日にちの表し方(2)；年、月、日、曜日 本文実習：中国語の勉強経歴について会話を練習する</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎B：日常会話に使われる基本的な会話を応用できる。 ○D：語彙力を増やし、初歩的な会話を聞き取り、概要及び詳細を理解できる。 E：日常生活で基本的な中国語の表現ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：新出単語及び例文を発音し意味を確認する。(20分以上) 事後学習：語彙の暗記、本文を読み、課題(毎回の授業で指示する)を完成させる。Google Classroomを利用し、オンラインで課題を提出する。(45分以上)</p>
指導方法	<p>原則として教科書に基づき授業を進めるが、各課の単語、本文と文法ポイントを指導した後、全体的に復習し、さらに応用練習を通じて、学生一人ひとりが習得できるように努める。 ＜フィードバックの方法＞ Google Classroomを通じて ① 事前課題を提示、② 筆記課題、動画課題提出(学生)、 ③ 指摘事項を記入し返却、④ 質問があった場合には、個別に対応する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>B：授業態度(授業中の発言・出席・積極性等)で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。 E：課題の提出状況と定期試験で評価する。</p> <p>定期試験50%、課題30%、授業態度20%</p>
テキスト	<p>『中国語の世界標準テキスト1』北京語言大学出版社編 出版社：株式会社スプリックス 出版日：2018年3月1日 初版第2刷発行 定価：本体¥2,200(+税)</p>
参考書	<p>以下のものを推薦する： 電子辞書 文法参考書：『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(相原茂ほか著・同学舎)</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・予習、復習を必ず行う ・出欠確認の方法については初回オリエンテーションの際に説明する
アクティブ・ラーニング	<p>会話実習：基本の挨拶と自己紹介(ペアワーク、グループワーク)</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
姜瑢嬉			
ナンバリング：G17C37			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ハングル(韓国語の文字)の読み書きを練習し、基本文型の習得や応用練習を通じて韓国語の基礎をしっかりと学ぶ。また、韓国語での基礎表現に自信を持てるように、簡単な日常会話や表現ができるように演習を重ねる。 (授業目標) A：学習目標に興味を持ち、積極的に参加することができる。 ◎B：基本的な日常会話を覚え、正しい韓国語を話すことができる。 C：学習内容の応用練習を通じ、学習問題を解くことができる。 ○D：語彙力を増やし、聞き取りができるようになる。 E：様々な教室活動の中で自分の考えを取り入れて表現することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス及び文字と発音(基本母音) 授業内容と計画などを紹介 韓国語の自己紹介&挨拶の表現と練習(はじめまして。名前+と申します) 韓国語文字(ハングル)の紹介と基本母音字(10個)習得</p> <p>2 文字と発音(合成母音) 基本母音字(10個)復習 合成母音字(11個)習得 授業前に小テスト：基本母音確認</p> <p>3 文字と発音(基本子音) 基本母音・合成母音の復習 基本子音の(14個)の習得 授業前に小テスト：基本母音、合成母音確認</p> <p>4 文字と発音(濃音、終声音) 基本母音・子音・合成母音の復習 濃音(5個)と終声音(パッチム)の習得 授業前に小テスト：基本母音、合成母音、基本子音確認</p> <p>5 文字と発音(総合練習、ハングル読む練習、自分の名前をハングルで書いてみること)、挨拶表現 ハングルの読み書き総合練習・確認 挨拶表現紹介・教室用語紹介 授業前に小テスト：ハングル読み書き総合確認</p> <p>6 第1課 私は日本人です。 挨拶・自己紹介 助詞：～は 名詞+～です。名詞+～ですか？(丁寧語) 授業前に小テスト：ハングル読み書き確認</p> <p>7 第2課 日本人ではありません。 助詞：～が、否定形練習 否定の言い方(～ではありません) 名詞+～ではありません(丁寧語) 授業前に小テスト：1課の会話内容確認</p> <p>8 第3課 それは何ですか？ 名詞+～です。名詞+～ですか(カジュアル&インフォーマル丁寧語) 名詞+～ではありません(カジュアル&インフォーマル丁寧語) 授業前に小テスト：2課の会話内容確認</p> <p>9 第4課 約束があります。 存在の表現(丁寧語、カジュアル&インフォーマル丁寧語) あります。います。／ありません。いません。 ありますか。いますか。／ありませんか。いませんか。 授業前に小テスト：3課の会話内容確認</p> <p>10 第5課 会社はどこにありますか。 位置を表す表現(上、下、前、後ろ…等) ～はどこにありますか？ ～にあります 授業前に小テスト：4課の会話内容確認</p> <p>11 第6課 週末は何をしますか。 ～ます・です/ますか？ですか？(丁寧語、疑問語) ～して・くて 色んな動詞 授業前に小テスト：5課の会話内容確認、動詞確認</p> <p>12 第7課 そんなに遠くありません。 否定形(～ではありません・～くありません)</p>

	<p>否定疑問形（～ではありませんか？・～くありませんか？） ～から～まで 色んな形容詞 授業前に小テスト：6課の会話内容確認、形容詞確認 13 第8課 いつ行きますか。 漢数字（日にち、値段の言い方） ～ですね。 授業前に小テスト：7課の会話内容確認 14 第9課 釜山までどうやって行きますか。 ～ます・です（カジュアル&インフォーマル丁寧語） 学習した動詞と形容詞を活用し練習 授業前に小テスト：8課の会話内容確認 15 第10課 何時からですか。 固有数字 時間・年齢の言い方、色んな助数詞（単位、～個、～杯、～枚など） 授業前に小テスト：9課の会話内容確認</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>A：ハンゲルの読み書きや韓国語に抵抗なく勉強することができる。 ◎B：韓国語で挨拶や自己紹介ができる。 C：日にち・値段・番号・年齢などを読むことができる。 ○D：簡単な質問にはい・いいえと答えることができる。 E：自分の感情を形容詞を使い韓国語で表現できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の語彙を予習として覚えること。（20分） 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。（5分） QRコードの音声聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。（10分） 事後学習：教科書の文型練習や応用練習を解いてみること。（20分） QRコードの音声聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。（10分） 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。（10分）</p>
指導方法	<p>教科書をメインにして順序よく進め、パワーポイント、映像資料などを使用し説明する。 状況に応じ一方的な講義ではなくグループワーク、プレゼンテーション等を積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：課題については返却の際に個別対応する。小テストを行い、採点・返却時に解説を行う。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>A：参加態度や授業貢献度を評価する。 B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 C：小テスト、課題を評価する。 D：定期試験を評価する。 E：提出物を評価する。</p> <p>定期試験50%、課題30%、授業への参加態度・貢献度20%</p>
テキスト	李志暎『できる韓国語 初級 I』DEKIRU出版、2018年5月1日新装版
参考書	
履修上の注意	<p>毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外には出席してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 授業に積極的に参加すること。 課題は必ず期限内提出すること。</p>
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループワーク（状況に応じて異なる）